

4-2 行動科学

研究・教育活動の概要と特色

1983年に設置された行動科学研究室は、①社会学をはじめ、心理学・言語学・人類学・政治学・経済学など多くの専門分野と対象領域を共有すること、②人間行動や社会現象の解明に科学的方法、とりわけ数理的・計量的方法を適用すること、の2点を掲げ研究・教育を実践してきた。過去5年に関しては、グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」（2008年度～2012年度）、「学校生活と社会に対する高校生の意識—第1回～第4回調査」（2009年度～2012年度）、「現代日本の階層状況の解明—ミクローマクロ連結からのアプローチ」（2008年度～2010年度）、「グローバリゼーションの進展に伴う労働市場構造の再編成と雇用・生活リスクの変動に関する融合的研究」（2011年度～2012年度）、「移動レジームの動態に着目した社会階層と雇用・生活リスクの融合的研究」（2012年度～）、「反外国人意識形成メカニズムに対するミクスドメソッド研究」（2013年度～）など、本研究室が推進してきた行動科学的手法をより広く適用、発信する機会に恵まれた。

上記の調査研究プロジェクト等を通じて、教員はじめ、大学院生や学生は、社会階層、階層意識、外国人住民に対する意識、教育など、さまざまな社会事象に数理・計量的アプローチを試みている。数理・計量的研究の専門家を揃えた講座の研究・教育体制は全国的にも高い評価を得ており、本研究室の創設者である西田春彦教授の描いた「東北に数理・計量社会学のメッカを作る」という夢が現実のものとなりつつある。

なお、2010年4月に、本郷正武助教が和歌山県立医科大学に専任講師として転出した。一方、2011年4月に永吉希久子が准教授として就任した。また、2012年4月に川嶋伸佳が助教として就任した。

I 組織

1 教員数（2013年9月末現在）

教授：2

准教授：2

講師：0

助教：1

教授：佐藤嘉倫、木村邦博

准教授：浜田 宏、永吉希久子

助教：川嶋伸佳

2 在学生数（2013年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
50	1	8	8	0

3 修了生・卒業生数（2009～2013年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
09	15	1	1
10	11	5	0
11	12	4	2
12	13	3	5(内満期退学者2)
13	0	0	0
計	51	13	8

*2013年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2009～2013年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
09	1	0	1
10	0	0	0
11	2	0	2
12	3	0	3

13	0	0	0
計	6	0	6

*2013年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

林雄亮、2009年度、『階層社会日本の現在—不平等化の再検討に関する計量社会学的研究』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、名誉教授・原純輔、教授・木村邦博、教授・長谷川公一、准教授・浜田宏

塩谷芳也、2011年度、『職業威信尺度と階層的地位志向—ミクロな個々人が持つ職業的地位認知に着目して—』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・木村邦博、教授・正村俊之、准教授・浜田宏

林雅秀、2011年度、『社会関係が森林管理行動に与える影響』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・木村邦博、教授・長谷川公一、准教授・浜田宏、准教授・永吉希久子

チハヤ ダ シルヴァ ギリエルメ ケンジ、2012年度、『Assortative Mating in 20th Century China: The Cultural Revolution, Social Transformation and Placement in Marriage Markets』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・木村邦博、准教授・下夷美幸、准教授・浜田宏、准教授・永吉希久子

余田翔平、2012年度、『家族構造と不平等の形成—ひとり親世帯出身者のライフコースに関する計量的研究』

審査委員：教授・木村邦博（主査）、教授・佐藤嘉倫、教授・下夷美幸、准教授・浜田宏、准教授・永吉希久子、准教授・辻本昌弘

伊佐（門間）由記子、2012年度、『地域コミュニティとしての商店街—ソーシャル・キャピタルの視点から』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・木村邦博、教授・長谷川公一、准教授・浜田宏、准教授・永吉希久子

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
09	3	0	0	2	5
10	9	1	7	2	19
11	14	3	6	8	31
12	6	3	0	1	10
13	2	0	3	0	5
計	34	7	16	13	70

* 2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

* 2011年度までは研究室所属の研究員等を含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
09	12	17	7	0	36
10	17	12	2	0	31
11	2	20	5	0	27
12	10	13	8	0	31
13	6	5	1	0	12
計	47	67	23	0	137

* 2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

* 2011年度までは研究室所属の研究員等を含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

[朝岡誠] (2005.4～)

朝岡誠、「誰が「解き放たれる」のか?: エージェント・ベースト・モデルによる信頼生成メカニズムの検討」 籠谷和弘(編)『市民活動の活性化支援の調査研究: 秩序問題的アプローチ』平成17年度～平成19年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書、2008年

* 朝岡誠、「評判は信頼を生成するか?—信頼生成メカニズムの経験的検証」『社会学研究』86号、pp.121-141、2009年

* 朝岡誠、「ワンステップ内で伝わる評判の効果」『理論と方法』26巻1号、pp.17-29頁、2011年.

[安達智史] (2010.4～2011.6)

* 安達智史、「ブリティッシュネスの解体と再想像—ポスト権限委譲におけるナショナルおよびサブナショナル・アイデンティティ」『社会学年報』、39号、pp51-62、2010年

* 安達智史、「新労働党の『テロリズム防止』政策の批判的検討——ポスト・テロ時代の社会統合について」『フォーラム現代社会学』10号、pp135-147、2011年

* 安達智史、「フランスとイギリスにおける社会統合の比較——伝統・政治・実践に着目して」『コロキウム』6号、pp.74-92、2011年

* 安達智史、「グローバル化時代における社会統合政策について——フランスとイギリスのスカーフ論争の比較を通して」『社会学研究』89号、pp.85-109、2011年

Adachi, Satoshi, “Reflexive Modernity and Young Muslims: Identity Management in a Diverse Area in the UK,” in Kimura Kunihiro ed., *Minorities and Diversity*, Australia: Trans Pacific Press, 83-99, 2011.

[井出知之] (2007.4~2012.3)

* 井出知之、「社会階層論における政治意識—社会構造と政治変動」『選挙研究』27巻1号、pp.72-84、2011年

井出知之・村瀬洋一、「第7章 社会階層と政治関与—社会的地位の効果は否定できるか」盛山和夫・片瀬一男・神林博史・三輪哲編『日本の社会階層とそのメカニズム』白桃書房、pp.185-224、2011年

[稲垣佑典] (2007.4~2013.3)

* 稲垣佑典、「都市部と村落部における信頼生成過程の検討」『社会心理学研究』、25巻2号、pp.92-102、2009年

稲垣佑典、『社会ネットワーク的アプローチによる転職と階層構造の分析』『現代日本の階層状況の解明—ミクローマクロ連結からのアプローチ— 第1分冊 社会階層・社会移動』科学研究費補助金 基盤研究(A) 研究成果報告書(課題研究番号:20243029)、pp.211-222、2011年

* 稲垣佑典、「「絆」は復旧を促進したか——東日本大震災後の地域復旧とソーシャル・キャピタルの関係」、『文化』、第76巻 第1・2号、pp.78-98、2012年

Inagaki, Yusuke “The Power of Kizuna: Did Social Capital Promote Recovery from the Great East Japan Earthquake?”, CSSI Working Paper Series,

pp.1-8, 2012.

[恵羅さとみ] (2009.4~2010.3)

恵羅さとみ、「建設業における移民日雇い労働者の拡大と労働者の保護・組織化—産業構造の変容とワーカーセンターの機能に着目して」小井土彰宏(代表研究者)『転換期のアメリカ合衆国移民政策の社会学的分析—9.11事件以降の入管政策の強化と「非合法」移民への対応』(平成16年度~平成18年度科学研究費補助金 基盤研究 B2(海外)研究成果報告書)、第5章: pp.137-193、2009年

[大林真也] (2010.4~)

*大林真也、「流動的集団における助け合いのメカニズム: 経験的研究と数理的研究によるアプローチ」『社会学評論』(印刷中)

[金澤悠介] (2005.4~2013.3)

金澤悠介、「ネットワークと信頼・社会参加についての3つの仮説—地域比較による予備的分析」籠谷和弘(編)『市民活動の活性化支援の調査研究: 秩序問題的アプローチ』平成17年度~平成19年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書: pp.133-151、2008年

金澤悠介、「ネットワークと信頼・社会参加についての3つの仮説—個人データによる検討」籠谷和弘(編)『市民活動の活性化支援の調査研究: 秩序問題的アプローチ』平成17年度~平成19年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書: pp.153-170、2008年

金澤悠介、「社会関係資本と一般的信頼の生成—二つの仮説の経験的検証と新たな仮説の提示」『社会学研究』、84号、pp.45-68、2008年

金澤悠介、「信頼と社会参加に関する地域比較—社会調査による検討」『東北文化研究室紀要』、49号、pp.15-27、2008年

金澤悠介、「書評『ソーシャル・キャピタル—社会構造と行為の理論—』ナン・リン著、筒井淳也他(訳)、ミネルヴァ書房『理論と方法』24巻2号: pp.367-370、2009年

ケン・ビンモア著、海野道郎・金澤悠介(訳)、『ゲーム理論(一冊でわかる)』岩波書店、(原著 Binmore, Ken. 2007. *Game Theory: A Very Short Introduction*. Oxford University Press.)、2010年

金澤悠介、「第12章 2つの質的変数の関連を見るII: 関連係数」廣瀬毅士・寺島拓幸(共編著)、『社会調査のための統計データ分析』オー

ム社、2010年

- * 椎名久美子・當山明華・デメジャン・アドレット・木村拓也・吉村幸・倉元直樹・金澤悠介、「個別大学のアドミッションセンターで入試研究を行う上での問題点の認識及び解決策の共有化について(2) — 平成20～21年度『個別大学アドミッションセンター教員を中心とする大学入試研究会発表要旨集』」『大学入試センター研究紀要』、39号、2010年
- * 金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子、「看護系大学の量的拡大に伴う大学入試設計の問題」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』5号、2010年
- * 金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子、「看護系大学の入試構造に見る高大接続問題」『大学入試研究ジャーナル』、21巻、49-57、2011年
- * 金澤悠介・朝岡誠・堀内史朗・関口卓也・中井豊、「エージェント・ベースト・モデルの方法と社会学におけるその展開」『理論と方法』、20巻、pp.149-159、2011年
- 山口和範・金澤悠介、2011。「社会情報教育研究センターによる全カリオンデマンド授業」『大学教育フォーラム』16：61-63.
- 金澤悠介、「Column 岩手県 暮らしと人間関係のアンケート」金井雅之・小林盾・渡邊大輔（編）『社会調査の応用—量的調査編：社会調査士E・G科目対応』弘文堂、2012年
- * 塩谷芳也・金澤悠介・浜田宏、「ビネット調査による階層帰属メカニズムの検討」『理論と方法』、7: 243-258、2012年
- [鎌田拓馬] (2012.4～)
- 鎌田拓馬 翻訳. 第2章 シェリング「人種乖離のダイナミックモデル」. 佐藤嘉倫・小林盾編. 『リーディングス合理的選択論——家族・組織・環境問題』. 勁草書房.
- [川嶋伸佳] (2011.4～2012.3)
- * 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子、「社会的な不平等とマイクロ公正感：不公正感受性の効果」『法と心理』、11巻、pp.47-57、2011年
- Kawashima, N, “Social Inequality and Sense of Fairness in Japan: Multi-Level Sense of Fairness, Social Ideals and Rationalization Mechanisms,”

K.Ohuchi and N. Asai eds. *Inequality, Discrimination, and Conflict in Japan: Ways to Social Justice and Cooperation*. Melbourne: Transpacific Press, pp.22-40, 2011.

* 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子、「多元的公正感と抗議行動：社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響」『社会心理学研究』、27 卷、pp.63-74、2012 年

[吉良洋輔] (2009.4～)

河村和徳・吉良洋輔、「第 1 章 交渉参加・合併枠組みと市町村合併」河村和徳著『市町村合併をめぐる政治意識と地方選挙』、木鐸社、2010 年

* 吉良洋輔・河村和徳、「ゲーム理論による市町村合併定式化の試み」『公共選択の研究』、56 号、pp.31-47、2011 年

* 吉良洋輔、「なぜコミュニケーションは社会的ジレンマを解決させるのか？—繰り返し N 人囚人のジレンマの均衡精緻化—」『理論と方法』、53 号、pp.107-124、2013

[佐藤智子] (2007.4～2009.3)

* 佐藤智子・佐々木肇、「釜石市とディーニュ・レ・バン市との姉妹都市交流に関する一考察」『総合政策』、9 卷 2 号、pp.103-125、2008 年

* 佐藤智子、「地方自治体における姉妹都市交流の継続性の条件」『社会学研究』、84 号、pp.177-198、2008 年

[Sarker, MD. Shahidul Islam] (2007.4～)

* Shahidul, S.M. “Household Decision-Making Process: It’s effect on School Dropout Behavior for Girls in the Secondary School Level in Bangladesh,” *International Education Studies*, Vol 6, No 1, 132-141, 2012

* S.M. Shahidul, “Marriage Market and an Effect on Girls’ School Dropout in Bangladesh,” *Journal of Alternative Perspectives in the Social Sciences*, Vol 4, No 2, 552-564, 2012

[塩谷芳也] (2005.4～2011.9)

塩谷芳也、「ライフストーリーからみる自営業層への参入経路」『文化』、72 卷 2 号、pp.42-61、2008 年

* 塩谷芳也、「職業の社会的地位の認知と地位志向」『社会学研究』85 号、pp.109-131、2009 年

* 塩谷芳也、「職業的地位の構成イメージと地位志向—職業の社会的地位の

全体像に関する認知に着目して」『理論と方法』、47号、pp.65-79、2010年

* 塩谷芳也、「高校生の性行動とセルフ・エスティーム」『社会学研究』、88号、1-26、2010年

Shiotani, Yoshiya “The Effect of Social Stratification Image on Status Orientation,” *Studies of Social Stratification in Contemporary Japan: From the Perspective of Micro-Macro Linkages 3 Social Consciousness and lifestyle*, The 2005 SSM Research Committee: 75-89, 2011

Shiotani, Yoshiya “Invisible Inequality: Occupational Prestige,” Ken-ichi Ohbuchi and Nobuko Asai (Eds.) *Inequality, Discrimination, and Conflict in Japan: Ways to Social Justice and Cooperation*, Melbourne, Transpacific Press: 65-84, 2011.

[鈴木伸生] (2009.4～)

鈴木伸生、「大卒就職におけるOB利用の効果と機会格差」『東京大学社会科学研究所 パネル調査プロジェクト ディスカッションペーパーシリーズ』No.40、pp.1-11、2011年

鈴木伸生、「書評『ソーシャル・キャピタル入門——孤立から絆へ』稲葉陽二著、中央公論新社」『理論と方法』28巻2号(印刷中)、2013年

鈴木伸生(訳)、「第1章『人的資本、努力、性別役割分業』(原著 Gary S. Becker. 1985. "Human Capital, Effort, and the Sexual Division of Labor." *Journal of Labor Economics* 3(1):33-58.)」佐藤嘉倫・小林盾・金井雅之編『リーディングス合理的選択理論——家族・組織・環境問題』勁草書房、2014年

[Chihaya da Silva, Guilherme Kenji] (2009.4～2012.9)

千早健次、「配偶者選択における第三者からの結婚相手の紹介と学歴同類婚—EASS 2006の日本と中国のデータから」、『日本版 General Social Surveys 研究論文集』10号、pp.173-181、2010年

Chihaya, Guilherme Kenji、「中国の改革開放時代における結婚のタイミング」『文化』75巻3-4号、pp. 16-28、2012年

[針原素子] (2005.4～2011.3)

辻竜平・針原素子、「ネットワーク理論から見た野沢温泉の活性化—観光

- 関係者へのインタビューをふまえて」籠谷和弘編『市民活動の活性化支援の調査研究：秩序問題的アプローチ』（平成17～19年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書）、pp.125-134、2008年
- * 辻竜平・針原素子、「新潟県中越地震におけるパーソナル・ネットワークと一般的信頼の変化—震災前後のパネル調査を用いて」『社会学研究』84号、pp.69-102、2008年
- 針原素子、「日本人の自己卑下的自己呈示に関するネットワークモデルの構築」東京大学大学院文学研究科博士論文、2008年
- * 辻竜平・針原素子、「中学生の人間関係の認知・評価と一般的信頼」『理論と方法』25巻1号、pp.31-47、2010年
- [林雅秀]（2007.4～2012.3）
- 林雅秀、「森林所有者の手入れ実施に対する意向分析」林野庁編『森林吸収源目標達成に資する効率的・効果的な森林整備の手法に関する調査報告書』、pp.31-35、2008年
- 林雅秀、「林家の意欲を向上させる取り組み事例」林野庁編『森林吸収源目標達成に資する効率的・効果的な森林整備の手法に関する調査報告書』、pp.36-57、2008年
- 林雅秀、「グローバル化時代における林政研究の課題」『林業経済研究』54巻2号、pp.55-57、2008年
- * 西園朋広・田中邦宏・栗屋善雄・大石康彦・林雅秀・横田康裕・天野智将・久保山裕史・八巻一成・古井戸宏通、「秋田地方のスギ人工林における林分材積成長量の経年推移」『日本森林学会誌』90号、pp.232-240、2008年
- * 林雅秀・天野智将、「素材生産業者のネットワークが森林管理に与える影響」『社会学評論』61巻1号、pp.2-18、2010年
- 林雅秀・三須田善暢・庄司知恵子・高橋正也「地域の文化の発掘：歴史に埋もれた漆器生産」『フォレストウィンズ』42号、pp.1-2、2010年
- * 林雅秀・岡裕泰・田中亘、「森林所有者の意思決定と社会関係：取引費用経済学の視点から」『林業経済研究』57巻2号、pp.9-20、2011年
- * 林雅秀、「シイタケ農家の被災：岩手県下閉伊郡田野畑村から」『林業経済』64巻5号、pp.20-22、2011年
- * 八巻一成・庄子康・林雅秀、「自然資源管理のガバナンス：レブンアツモ

- リソウ保全を事例に」『林業経済研究』57巻3号、pp.2-11、2011年
- * 庄司知恵子・林雅秀・高橋正也・三須田善暢、「土屋喬雄の石神調査ノート(二): アチックミュージアムによる石神調査の再考に向けて」『総合政策』13巻1号、pp.55-71、2011年
- [林雄亮] (2005.4~2011.3)
- 林雄亮、「現代日本社会の多元的階層システム」佐藤嘉倫編『2005年SSM調査シリーズ15 流動性と格差の階層論』pp.153-170、2008年
- 林雄亮、「日本における転職と賃金変化の時代的変遷」佐藤嘉倫編『2005年SSM調査シリーズ15 流動性と格差の階層論』pp.83-98、2008年
- * 林雄亮、「労働市場の流動化と世代内移動の帰結—転職に伴う賃金変化構造の時代的変遷」『社会学年報』37号、pp.59-69、2008年
- * 林雄亮、「現代日本の多元的階層構造」『社会学研究』84号、pp.199-221、2008年
- * 林雄亮、「日韓労働市場の流動性と格差—転職とそれに伴う収入変化の比較分析」『社会学研究』86号、pp.7-31、2009年
- * 余田翔平・林雄亮、「父親の不在と社会経済的地位達成過程」『社会学年報』39号、pp.63-74、2010年
- 林雄亮・佐藤嘉倫、「流動化する労働市場と職業キャリアの格差」、盛山和夫・神林博史編『日本の社会階層とそのメカニズム』、白桃書房(印刷中)、2010年
- 神林博史・三輪哲・林雄亮、「ジェンダーと職業的不平等」、盛山和夫・神林博史編『日本の社会階層とそのメカニズム』、白桃書房(印刷中)、2010年
- Hamada, Hiroshi and Yusuke Hayashi, "An Impact of Change in Household Composition on Poverty and Inequality in Japan," Yoshimichi Sato and Jun Imai ed. *Change in Japanese Welfare-Employment Regime and Inequality*, Trans Pacific Press (印刷中), 2010年
- 林雄亮、「転職時の収入変化—高度経済成長期から2000年代までの構造と変容」、石田浩・近藤博之・中尾啓子編『21世紀の階層システム2』東京大学出版会(印刷中)、2010年
- 佐藤嘉倫・林雄亮、「現代日本の格差の諸相—転職とワーキングプアの問題を中心にして」、佐藤嘉倫・尾嶋史章編『21世紀の階層システム1』

東京大学出版会（印刷中）、2010年

林雄亮・余田翔平、「女性のライフコースの変化—就業・結婚・出産のコーホート間比較」、佐藤嘉倫（編）、『現代日本の階層状況の解明—ミクロ-マクロ連結からのアプローチ 第2分冊 教育・ジェンダー・結婚』、科学研究費補助金基盤研究（A）（20243029）成果報告書、229-243、2011年。

今井順・林雄亮、「移動レジームの変化についての試論—産業構造転換と規制緩和のなかで」、佐藤嘉倫（編）、『現代日本の階層状況の解明—ミクロ-マクロ連結からのアプローチ 第1分冊 社会階層・社会移動』、科学研究費補助金基盤研究（A）（20243029）成果報告書、75-92、2011年。

Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, "Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan," 佐藤嘉倫（編）、『現代日本の階層状況の解明—ミクロ-マクロ連結からのアプローチ 第1分冊 社会階層・社会移動』、科学研究費補助金基盤研究（A）（20243029）成果報告書、119-130、2011年。

三輪哲・田辺俊介・岩瀬晋・長松奈美江・大槻茂美・石田光規・林雄亮、「SSM 職業分類・産業分類の再検討」、三輪哲（編）、『現代日本の階層状況の解明—ミクロ-マクロ連結からのアプローチ 別冊 SSM 職業分類・産業分類の改定に向けて』、科学研究費補助金基盤研究（A）（20243029）成果報告書、1-45、2011年。

Hamada, Hiroshi and Yusuke Hayashi, "An Impact of Change in Household Composition on Poverty and Inequality in Japan," Yoshimichi Sato and Jun Imai (eds). Japan's New Inequality: Intersection of Employment Reforms and Welfare Arrangements, Trans Pacific Press, 119-131, 2011.

[余田翔平]（2008.4～2013.3）

余田翔平、「父不在高校生の生活と意識」木村邦博編『教育と社会に対する高校生の意識—第6次調査報告書』東北大学教育文化研究会、pp.137-155、2009年

* 余田翔平・林雄亮、「父親の不在と社会経済的地位達成過程」『社会学年報』39号、pp.63-74、2010年

余田翔平、「結婚の不安定性の世代間伝達—父不在と離婚リスク」佐藤嘉

倫編『現代日本の階層状況の解明—ミクローマクロ連結からのアプローチ 第2冊分 教育・ジェンダー・結婚』（科学研究費補助金 基盤研究（A）研究成果報告書 研究課題番号：20243029）、pp.277-289、2011年

林雄亮・余田翔平、「女性のライフコースの変化—就業・結婚・出産のコーホート間比較」佐藤嘉倫編『現代日本の階層状況の解明—ミクローマクロ連結からのアプローチ 第2冊分 教育・ジェンダー・結婚』（科学研究費補助金 基盤研究（A）研究成果報告書 研究課題番号：20243029）、pp.229-243、2011年

* 余田翔平、「母子世帯の高校生の教育達成過程—家族構造とジェンダーによる不平等の形成」『社会学研究』90号、pp.55-74、2012年

* 余田翔平、「子ども期の家族構造と教育達成格差—二人親世帯／母子世帯／父子世帯の比較」『家族社会学研究』24号1巻、pp.60-71、2012年

Yoda, Shohei, “Single Parenthood and Children's Educational Attainment in Japan,” Center for the Study of Social Stratification and Inequality (CSSI) Working Paper Series, 2013.

（2）口頭発表

[朝岡誠]（2005.4～）

Kanazawa, Yusuke and Makoto Asaoka, “When do high trusters leave their commitment relations?: An exploration through an agent-based model” Forth US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology in Redondo Beach, 1st June, 2008

朝岡誠、「信頼生成のメカニズム—いつ信頼が「解き放たれる」のか」日本社会学会大会（東北大学）、2008年11月24日

Asaoka, Makoto, “Theoretical study of differences in the desire to learn, ‘Incentive divide’”, 第13回 MEE Seminar（明治大学）、2009年12月8日

朝岡誠「教育意欲格差の数理モデル分析」数理社会学会大会（立命館大学）2010年3月7日

朝岡誠「悪事千里を走る？—ワンステップ内の評判の効果」数理社会学会

大会（沖縄国際大学）、2011年3月9日

朝岡誠「好事門を出でず—なぜ「良い」評判は伝わりにくいのか」数理社会学会大会（信州大学）、2011年9月7日

Makoto Asaoka, Yusuke Kanazawa, "Effect of One-Step Reputation -Opportunity Cost and Social Order" Japan-Swiss Joint Workshop on Agent-Based Models in Sociology at ETH Zürich, Switzerland, 15th, September, 2011.

Makoto Asaoka, Yusuke Kanazawa, "Why Does Bad Reputation Have Wings? An Exploration through an Agent-Based Model," The 7th Conference of the European Social Simulation Association (ESSA) at Agropolis International, Montpellier, France, 21th September 2011.

朝岡誠, 金澤悠介, 林雅秀, 松浦俊也, 吉良洋輔「よそ者とうまく付き合うためのcommons管理ルールの解明—福島県南会津地方の共有林管理を事例として」数理社会学会大会（鹿児島大学）、2012年3月14日

朝岡誠「開かれた共有林利用ルール成立の条件」数理社会学会大会（東北学院大学）、2013年3月19日

[安達智史]（2010.4～2011.6）

Adachi, Satoshi, "Approaches to Community Cohesion and Integration in Japan and the UK," Comparing Cohesion and Integration, Japan and the European Union, Institute of Community Cohesion, Institute of Community Cohesion, Tokyo, British Council, February 23rd, 2010.

Adachi, Satoshi, "Reflexive Modernity and Young Muslims: Identity Management in Super-Diverse Area," Social Justice, Social Identity and Intergroup Conflict, International Conference of GCOE, Sendai, Tohoku University, March 6th, 2010. 安達智史、「再帰的近代における若者ムスリムのアイデンティティについて」、関西社会学会大会（名古屋市立大学）、2010年5月30日

安達智史、「イギリスの若者ムスリムの社会意識—グローバリゼーション、再帰性、アイデンティティ」第83回日本社会学会（名古屋大学）、2010年11月6日 Adachi, Satoshi, 2010, "Being Muslim and Being British: Identity Management of Young Muslims," The 10th Asian Pacific Sociological Association Conference, Hyatt Regency Kinabalu, Kota

Kinabalu, December 6th, 2010.

Adachi, Satoshi, "Identity Management of Young British Muslims: Differentiation and Adaptation," GCOE Workshop (Tohoku University), December 13th, 2010.

安達智史、「若者ムスリムのアイデンティティ管理——再帰性に着目して」トランス・ナショナル研究会（名古屋市立大学）、2011年5月18日

安達智史、「多文化主義をめぐる論争——再帰性、アイデンティティ・文化」第62回関西社会学会大会（甲南女子大学）、2011年5月29日

安達智史、「アイデンティティと文化の再帰的關係について——リベラルな多文化主義に向けて」第20回グローバル社会理論フォーラム（名古屋大学）、2011年5月31日

安達智史、「外国にルーツを持つ子どもと彼女／彼らを取り巻く世界」知多市にほん語の会（ふれあいプラザ）、2011年6月18日

[井出知之]（2007.4～2012.3）

井出知之、「階層帰属意識と階層評価の基準」数理社会学会大会（芝浦工業大学）、2008年8月31日

井出知之、「民主主義的警戒としての『支持政党なし』」日本選挙学会研究会（同志社大学）、2009年5月17日

井出知之、「『支持政党なし』と日本の特殊性」東北社会学会大会（東北学院大学）、2009年7月20日

井出知之「地位評価の基準と階層帰属意識」日本社会学会大会（立教大学）、2009年10月12日

井出知之、「地位と階層帰属意識、その平等主義意識への影響について」数理社会学会大会（沖縄国際大学）、2011年3月8日

井出知之、「階層帰属意識は社会的地位と平等主義の媒介変数たりうるか」東北社会学会大会（宮城学院大学）、2011年7月18日

[稲垣佑典]（2007.4～2013.3）

Inagaki, Yusuke, "Trust and trust generating process in urban areas and rural areas," Fourth joint Japan-North America mathematical sociology conference, Redondo Beach, California, May 29th, 2008

稲垣佑典、「地域比較による信頼生成過程の変化についての検討」日本社会心理学会（かごしま県民交流センター）、2008年11月3日

- Inagaki, Yusuke, "Relationship Between Trust and Commitment: A Study of Trust Generating Processes in Japanese Urban and Rural Areas" The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Yonsei University, Seoul, March 12th 2009
- Inagaki, Yusuke, "Characteristics and Potential of Social Capital: Possible Use of Social Capital in Japanese Local Revitalization" Tohoku-Stanford Summer School 2009, Tohoku University, Japan, 17th July 2009
- 稲垣佑典、「中心市街地活性化協議会のネットワークが地域活性化対策に及ぼす影響」、日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第 56 回大会合同大会（大阪大学）、2009 年 10 月 11 日
- Inagaki, Yusuke, "Relationship Between Trust and Commitment: Trust Generating Processes in Japanese Urban and Rural Areas" 『東北大学大学院文学研究科グローバル COE 主催「若手研究者のための Lind セミナー」』、仙台（東北大学）、2009 年 11 月 13 日。
- Inagaki, Yusuke, "Job Changes and Social Networks: The Difference between Voluntary and Involuntary Job Changers", The Fourth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquires by Young Scholars in Asia, Sendai (Excel Hotel Tokyu), March 14, 2010.
- Inagaki, Yusuke and Yusuke Hayashi, "Reexamination of Social Networks on Job Changes: the Case of Japanese Labor Market," SunBelt XXX, Trento, Italy (Riva del Garda Fierecongressi), July 2, 2010.
- Inagaki, Yusuke. June, 2011 "Analysis of Job Change and Social Stratification: A Social Network Approach." The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Sendai, January 29-30, 2011.
- 稲垣佑典、「東日本大震災における地域ソーシャル・キャピタルの効果—復旧認知の観点から」第 53 回数理社会学会大会（鹿児島大学）、2012 年 3 月 14 日
- Inagaki, Yusuke, "Dysfunction of High Trust on Sanctioning Behavior in a Repeated Trust Game," Tohoku-Stanford Summer School 2012, Tohoku University, Sendai, Japan, July 3, 2012.
- Inagaki, Yusuke, "The Power of Kizuna: Social Capital and Recovery in the

Great East Japan Earthquake," The Fifth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference, Colorado Convention Center, Denver, USA, August 16, 2012.

[惠羅さとみ] (2009.4~2010.3)

Era, Satomi, "Mobility and Labor Movement: An Analysis on Traditional Trade Unions Facing New Agendas," The 9th conference of Asia-Pacific Sociological Association (APSA) at the Discovery Kartika Plaza Hotel, Bali, Indonesia, 14th June 2009.

惠羅さとみ、「アメリカ労働運動とローカリティ・移動・世代経験」東北社会学会研究例会（東北大学）、2009年7月4日

[大林真也] (2010.4~)

大林真也・金澤悠介、「コミュニティ・ユニオンにおける集合行為のメカニズム—フィールドワークと数理モデルによるアプローチ」数理社会学会（沖縄国際大学）、2011年3月8日

大林真也、「開放的集団における助け合いのメカニズム——経験的研究と数理的研究によるアプローチ」数理社会学会（鹿児島大学）、2012年3月14日

大林真也、「東日本大震災における援助行動の計量分析」数理社会学会（関東学院大学）、2012年8月30日

Obayashi Shinya, "What facilitated disaster volunteers in Miyagi?," The 11th conference of Asia-Pacific Sociological Association (APSA) at Ateneo de Manila University, Quezon City, Metro Manila, Philippine, 22-24th October 2012

大林真也、「災害ボランティアの参加要因—宮城県震災データの計量研究—」日本社会学会大会（札幌学院大学）、2012年11月3-4日

大林真也、「プレイヤー流動性のある集団における利他的慣習成立のメカニズム——Overlapping Generation Game の社会学的応用——」ゲーム理論ワークショップ（一橋大学）、2013年3月15-17日

大林真也、"Joint Labor Disputes in Community Unions: An Application of OLG Repeated Game" ミクロワークショップ（東京大学）、2013年7月9日

Obayashi Shinya, "Reciprocal exchange systems by overlapping generations of

players: based on empirical and game theoretic approaches,” Asian Meeting of the Econometric Society at National University of Singapore, Singapore, 2-4th August 2013.

[小川翔平] (2011.4~2013.3)

小川翔平、「ボランティア活動参加における階層依存性の検討」数理社会学会大会（鹿児島大学）、2012年3月15日

[金澤悠介] (2005.4~2013.3)

Kanazawa, Yusuke, “Which form of social networks fosters people’s trust? : A test of two hypotheses on the relationship between social networks and trust.” International Symposium on Frontiers of Sociological Inquires by Young Scholars in Asia, 2008

Kanazawa, Yusuke and Makoto Asaoka, “When do high trusters leave their commitment relations?: An exploration through an agent-based model.” Forth US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology in Redondo Beach, 1st June, 2008

Kanazawa, Yusuke, “Why social networks breed people’s sense of trust?: An empirical test of three hypotheses.” 日本社会学会大会（東北大学）、2008年11月23日

倉元直樹・金澤悠介、「大学入学者選抜における調査書利用の考え方—『合否入替り』法を利用して」日本高等教育学会（長崎大学）、2009年5月23日

金澤悠介、「組織加入と信頼の生成—社会調査による検討」東北社会学会大会（東北学院大学）、2009年7月20日

金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子、「看護師は理系？文系？—大学入試設計から考える看護師養成の問題」日本テスト学会（名古屋大学）、2009年9月3日

倉元直樹・金澤悠介、「大学入試における『評価尺度の多元化』に則った調査書利用法に関わる一考察」日本テスト学会（名古屋大学）、2009年9月4日

内海裕太・林雅秀・金澤悠介・吉良洋輔・海野道郎、「社会的ジレンマの観点から見た入会地の管理—宮城県白石市小原地区の複数村入会の事例分析—」第49回数理社会学会大会、2010年

金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子、「看護系の入試構造に見る高大接続問題」平成 22 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会（第 5 回）大会、2010 年

金澤悠介・片山琴絵・廣瀬毅士・山口和範、「e-Learningによる統計教育の実践と統計教育の質保証」第38回行動計量学会、2010年

Kanazawa, Yusuke, Ushio Tanaka, Tsuyoshi Hirose, Kazunori Yamaguchi. 2010. “Features of the E-Learning Course for Social Survey and Introductory Statistics in Rikkyo University.” *10th China-Japan Symposium on Statistics.*

金澤悠介・林雅秀・吉良洋輔・海野道郎. 2010. 「入会林野管理の計量社会学的研究」 第 83 回日本社会学会.

金澤悠介. 2011a. 「看護系大学の入試の実態—入試科目の観点から—」 日本看護学教育学会第 21 回学術集会

金澤悠介. 2011b. 「コモンズの利用状況を規定する社会状況—『昭和 49 年全国山林原野入会慣行調査』の計量社会学的分析—」 第 52 回数理社会学会大会

Kanazawa, Yusuke., Ushio Tanaka and Kazunori Yamaguchi. 2011. “An e-Learning course for multivariate analysis: The case of Rikkyo University”, *Joint meeting the Korea-Japan Conference of Computational Statistics and the 25th Symposium of Japanese Society of Computational Statistics.*

Asaoka, Makoto and Yusuke Kanazawa. 2011a. “Effect of one-step reputation: Opportunity cost and social order” *Japan-Swiss Joint Workshop on Agent Based Model in Sociology.*

山口和範・金澤悠介・田中潮. 2011. 「立教大学における統計関連科目の e-learning 展開とその教育成果について」 2011 年度統計関連学会連合大会.

金澤悠介. 2012. 「階層帰属意識は何を測定しているのか？—潜在クラス分析によるアプローチ—」 第 4 回 SSP 研究会（統計数理研究所共同利用研究公開研究会）

金澤悠介. 2012. 「潜在クラス分析によるコモンズ管理の分類—『昭和 49 年全国山林原野入会慣行調査』にもとづく分析—」 第 53 回数理社会学会.

塩谷芳也・金澤悠介・浜田宏. 2012. 「ビネット調査による社会的地位評価の分析」 第4回 SSP 研究会（統計数理研究所共同利用研究公開研究会）

Kanazawa, Yusuke, 2012, “Does prisoner’s dilemma game reflect the reality of commons?: A quantitative analysis of Japanese commons (Iriai) in 1972,” Fifth US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology.

金澤悠介. 2013. 「中高年層における社会的孤立の要因とその帰結—孤立予備軍に着目した探索的分析—」 第55回数理社会学会大会

[鎌田拓馬]（2012.4～）

Makiko, Nakamuro and Takuma, Kamada, “The Rate of Returns to Education Using Twins Data in Japan” Tohoku-Stanford Summer School 2012, Tohoku University, Japan, 5th July 2012

鎌田拓馬, 「地域と犯罪—社会解体論の実証研究」、第55回数理社会学会（東北学院大学）, 2013年3月19日.

Guilherme Kenji Chihaya and Takuma Kamada, “Network Homophily and Racial Inter-marriage: an Agent Based Model of Marital Matches in Networks,” 第55回数理社会学会（東北学院大学）, 2013年3月19日.

Takuma Kamada, “Marginalization, Vulnerability and Crime: Evidence from Tokyo,” Asian Criminological Society 5th Annual Conference, Mumbai India, April 15th 2013.

鎌田拓馬, 「医療大麻合法化は薬物依存のリスクを低下させるか—合理的選択理論の応用とその実証研究」、非行研第97回定例研究会（東京大学）, 2013年4月21日.

Guilherme Kenji Chihaya and Takuma Kamada, “Network Homophily and Assortative Mating: an Agent Based Model of Marital Matches in Networks,” XXXIII Sunbelt International Network for Social Network Analysis, Hamburg Germany, May 24th 2013.

Takuma Kamada, “Do Medical Marijuana Laws Lower the Risk of Addiction to Other Illicit Substances? Rational Choice Theory and Weakened Social Control,” Preconference Rationality and Society Section of the ASA, New York U.S.A., August 9th 2013.

Guilherme Kenji Chihaya and Takuma Kamada, “Network Homophily and

Racial Intermarriage: an Agent Based Modeling Approach,” American Sociological Association 108th Annual Meeting, New York, U.S.A., August 11th 2013.

Takuma Kamada, “Medical Marijuana Laws, Drug Addicts and Crime: Rational Choice Theory and Empirical Evidence from the U.S.”, 第56回数理社会学会（関西学院大学）, 2013年8月28日.

[川嶋伸佳]（2011.4～2012.3）

川嶋伸佳・大淵憲一 「階層帰属意識とミクロ公正感」日本社会心理学会第52回大会（名古屋大学）、2011年9月18日

川嶋伸佳 「社会的な不平等とミクロ公正感：公正関心の多様性の基づく検討」日本社会心理学会第52回大会ワークショップ（名古屋大学）「『関係性』に注目した公正概念の検討—手続きなのか人間関係なのか—」2011年9月19日

Kawashima, Nobuyoshi. “Social Stratification and Micro Fairness: Mediation by the Perception of Inequality of Outcomes and Opportunities and That of Respect,” Workshop on the Frontiers of Social Research, in conference room 422, Sino Building, The Chinese University of Hong Kong, February 14, 2012.

[吉良洋輔]（2009.4～）

吉良洋輔・河村和徳、「市町村合併のゲーム論的分析」公共選択学会（慶応義塾大学）、2010年6月27日

吉良洋輔、「無限繰り返しゲームによるコモンズ・ジレンマの分析—利他的懲罰による均衡維持メカニズムの定式化」数理社会学会大会（沖縄国際大学）、2011年3月8日

吉良洋輔、「社会的ジレンマにおける協力行動と他者行動認知の関連—東日本大震災後の節電行動の計量分析—」数理社会学会大会（鹿児島大学）、2012年3月15日.

林雅秀・松浦俊也・吉良洋輔、「共有林の利用と部外者入山ルール」日本森林学会大会（宇都宮大学）、2012年3月28日

吉良洋輔、「東日本大震災後の節電行動における他者行動認知の効果」公共選択学会大会（専修大学神田校舎）、2012年7月1日.

Kira, Yosuke, “Why Communication Promotes Cooperation in Social Dilemmas.”

The Fifth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference,
at the Colorado Convention Center, Denver, U.S.A., 16th August 2012

Hayashi, Masahide, Toshiya Matsuura, Yosuke Kira. “Rules of Using Common
Forests for Wild Plants and Mushrooms: A Comparative Study of Rural
Communities in Japan.” World Congress of Rural Sociology, at University of
Lisbon, Lisbon, Portugal, 2nd August 2012

Hayashi, Masahide, Toshiya Matsuura, Makoto Asaoka, Yosuke Kira.
“Accommodating Strangers in Common Forests: A Comparative Study of
Rural Communities in Japan.” the 14th Biennial IASC Global Conference, at
Mount Fuji - lake Yamanaka and Fujiyoshida City, Japan, 4th June 2013.

[毛塚和宏] (2011.4~2013.3)

毛塚和宏、「教育達成の階層間格差における下降回避仮説検討」数理社会
学会大会（東北学院大学）、2013年3月20日

[Sarker, MD. Shahidul Islam] (2007.4~)

Sarker Md Shahidul, “Parents’ class background and Hypergamy in marriage
market of Bangladesh; Does the dowry affect school dropout among girls?”
The Fifth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference,
at the Colorado Convention Center, Denver, U.S.A., 16th August 2012

Sarker Md Shahidul, “Mother participation in household decisions and girls
education,” 3rd International Conference on Humanities, Geography and
Economics, Bali, Indonesia, January 5th, 2013

[塩谷芳也] (2005.4~2011.9)

Shiotani, Yoshiya, “Perception of Occupational Status and Orientation of Status
Attainment,” Fourth Joint Japan-North America Mathematical Sociology
Conference, in Redondo Beach, California, May 30, 2008.

Shiotani, Yoshiya, “Cognition of Social Conditions and Status Attainment
Orientation,” 81th Annual Meeting of The Japan Sociological Society(日本
社会学会大会), at Tohoku University, November 23, 2008.

Shiotani, Yoshiya and Yoshimichi Sato, “Why Does Difference in Aspiration
Exist among Individuals, Explanation in Terms of Social Images,”
Inequalities and Disparities in East Asia: A Tohoku University & NUS
Joint Forum of Sociology and Stratification Studies, at National University

of Singapore, February 19, 2009.

Shiotani, Yoshiya and Yoshimichi Sato, “Social Image and Aspiration to Get Higher Social Status,” International Symposium on Social Justice, Social Stratification, and Intergroup Conflict, at Sendai International Center, February 24, 2009.

Shiotani, Yoshiya and Yoshimichi Sato, “Perception of Social Stratification and Status Orientation” The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Yonsei University, Korea, March 13, 2009.

Shiotani, Yoshiya, “Distributive Image of Social Stratification and Status Orientation,” The 9th Conference of the Asian Pacific Sociological Association, at Kartika Plaza Hotel, Kuta, Bali, Indonesia, on June 13, 2009.

Shiotani, Yoshiya, “Perception of Social Stratification and Status Orientation,” Tohoku and Stanford University Summer School 2009, at Tohoku University, on July 13, 2009.

Shiotani, Yoshiya, “Sexual Behavior and Self-Esteem among Japanese Youth,” Mini-conference on Building Asian Sociology: Prospect and Strategies、仙台、東北大学、2010年1月23日

塩谷芳也、「青少年の性行動とセルフエスティーム」、社会階層と健康格差—社会科学と健康科学の融合 仙台研究交流集会 2010 文部科学省科学研究費（新学術領域提案型）「社会階層と健康」A06 領域「社会保障・労働政策の分析」班による公開研究会、仙台、東北学院大学、2010年2月26日

Shiotani, Yoshiya, “Does the Self-Esteem Encourage Sexual Behavior or Not? Case of Japanese Youngster,” The Fourth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia、仙台、エクスセルホテル東急、2010年3月14日

[鈴木伸生]（2009.4～）

鈴木伸生、「大卒就職において OB 利用の効果は衰退したのか—OB の機能に着目して」数理社会学会大会（沖縄国際大学）、2011年3月8日
鈴木伸生「大卒就職における OB 利用の規定要因」日本社会学会大会（関

- 西大学)、2011年9月17日
- 鈴木伸生、「個人のサポートに対する個別的・集合的社会関係資本の役割
—東日本大震災の被災者を対象に—」数理社会学会大会(鹿児島大学)、
2012年3月14日
- 鈴木伸生、「社会関係資本の形成メカニズムにおける数理的解明」東北ソ
ーシャルキャピタル研究会(東北工業大学)、2012年3月16日
- Suzuki, Nobuo, “The Formation Conditions of New Social Networks: An
Empirical Study with Disaster Victim of Earthquake at North-East Japan.”
The Fifth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference,
Denver, The Colorado Convention Center, August 16th, 2012.
- 鈴木伸生、「社会関係資本の形成において、多様性は重要か?—大学生の
サークル集団を対象とした実証的研究—」東北社会学会(東北大学)、
2013年7月21日
- 鈴木伸生、「結束型社会関係資本は、外集団ネットワークを形成するか?
—大学生のサークル集団を対象としたマルチレベル分析による検討
—」数理社会学会(関西学院大学)、2013年8月28日
- 鈴木伸生、「集団の社会関係資本が主観的健康に及ぼす影響—大学生のサ
ークル集団を対象とした Heterogeneous Choice Model による検討—」日
本社会学会(慶應義塾大学)、2013年10月12日~13日
- [Chihaya da Silva, Guilherme Kenjy] (2009.4~2012.9)
- Chihaya da Silva, Guilherme Kenjy、「中国における職業的地位の測度—通
婚圏から見える職業の序列」東北社会学会大会(東北学院大学)、2009
年7月19日
- Chihaya da Silva, Guilherme Kenjy、「改革開放後中国における社会的地位
—職業集団の通婚圏の分析から」日本社会学会大会(立教大学)、2009
年10月11日
- Chihaya da Silva, Guilherme Kenjy、「Partner Introduction and Homog-amy in
China: Does Who Introduces Matters?」ISA 国際社会学会大会 ヨーテボ
リ、ヨーテボリ大学ハンデルスビジネススクール 2010年7月14日
- Chihaya da Silva, Guilherme Kenjy、「Market Transition and the Social Space
of Interactions in China: Changes in the Status Positions of Occupations
after the Reforms」ISA 国際社会学会大会 ヨーテボリ、ヨーテボリ大

学ハンデルスビジネススクール 2010年7月16日

Chihaya, Guilherme Kenji, "Who Marries Whom in China" The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Sendai, Tohoku University, January 30th, 2011.

Chihaya, Guilherme Kenji, "Who Gets to Marry in China: Inequalities in Marriage Markets in the Post-Reform Urban China", Spring Meeting of the Research Committee for Social Stratification and Inequality, Hong Kong, Chinese University of Hong Kong, May 11th, 2012.

[針原素子] (2005.4~2011.3)

Harihara, Motoko and Chang, S., "The effect of social networks on modest self-presentation: Comparative study in Japan and Korea" Poster session presented at the 19th Congress of International Association for Cross-Cultural Psychology, (Abstract 470), Bremen, Germany, 2008, July 30

針原素子、「社会的ネットワーク構造が“集団主義的”特性に及ぼす影響」日本社会心理学会第49回大会（鹿児島大学）、2008年11月2-3日

針原素子・小林哲郎・高木大資、「寛容性と私生活志向が社会関係資本に及ぼす効果：無関心の表れとしての寛容性に注目して」日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回合同大会（大阪大学）、2009年10月11日

小林哲郎・針原素子・高木大資、「評判の共有と利用における携帯メール利用の効果：地域間比較の視点から」日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回合同大会（大阪大学）、2009年10月12日

高木大資・小林哲郎・針原素子・池田謙一、「犯罪は地域コミュニティに何を引き起こすのか？社会関係資本論からの検討」日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回合同大会（大阪大学）、2009年10月12日

Harihara, Motoko, "Cultural differences in social capital: Comparative study in Japan and Korea," Cultural Psychology Pre-Conference at the Society for Personality and Social Psychology Annual Meeting, 2010, January 28th, Las Vegas, USA

Harihara, Motoko, "Location of social networks and political participation: Comparative study in Japan and Korea," 30th Sunbelt Social Network Conference, 2010, July, 1st, Riva del Garda, Italy

[林雅秀] (2007.4~2012.3)

田中亘・山本伸幸・林雅秀、「林業経営統計調査からみた主業的林業経営の動向」日本森林学会関西支部大会（高知大学）、2008年10月17-18日

林雅秀・山本伸幸「林業経営統計調査から見た世帯、支出、および所得」林業経済学会秋季大会（岩手大学）、2008年11月15日

高橋正也・比屋根哲・林雅秀「社会ネットワーク分析による農村集落住民ネットワークの把握」林業経済学会秋季大会（岩手大学）、2008年11月16日

林雅秀・岡裕泰・田中亘・久保山裕史「森林所有者の意思決定と社会関係」日本森林学会大会（京都大学）、2009年3月26日

山本伸幸・林雅秀・田中亘「2005年農林業センサス「農林業経営体」概念の予備的検討」日本森林学会大会（京都大学）、2009年3月26日

岡裕泰・林雅秀・田中亘・久保山裕史「森林所有者の主伐—更新意思決定と地域における長期的木材供給」日本森林学会大会（京都大学）、2009年3月27日

Hayashi, Masahide and Tomomasa Amano, "Effects of Networks Composed of Loggers and Forest Owners on Forest Management," International Symposium on Society and Resource Management hosted by The University of Natural Resources and Applied Life Sciences in Vienna, July 8th 2009.

内海裕太・林雅秀・金澤悠介・吉良洋輔・海野道郎、「社会的ジレンマの観点から見た入会地の管理」、数理社会学会（立命館大学）、2010年3月7日

林雅秀・松浦俊也・吉良洋輔、「共有林の利用と部外者入山ルール」日本森林学会大会（宇都宮大学）2012年3月28日

[林雄亮] (2005.4~2011.3)

Hayashi, Yusuke, "Fluidization of the Labor Market and Social Disparity in Japan: Focusing on Intra-generational Mobility using SSM2005 data," Inequalities and Disparities in East Asia: A Tohoku University & NUS

- Joint Forum of Sociology & Stratification Studies at National University of Singapore, Singapore, 19 February 2009.
- Hayashi, Yusuke, "Fluidization of the Labor Market in Postwar Japan," The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia at Yonsei University, Seoul, 13 March 2009.
- Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, "Change and Stability in the Social Stratification System in Contemporary Japan: Coexistence of Stability and Fluidization," ISA-RC28 2009 Spring Meeting at Renmin University, Beijing, 14 May 2009.
- Hayashi, Yusuke and Yoshimichi Sato, "Fluidization of the Labor Market and Disparity in Postwar Japan," The 9th Conference of Asia-Pacific Sociological Association at Discovery Kartika Plaza Hotel, Bali, 14 June 2009.
- 林雄亮、「ワーキングプア層の変化と移動メカニズム」東北社会学会大会（東北学院大学）、2009年7月20日
- Hayashi, Yusuke, "Fluidization of the Labor Market in Contemporary Japan: Introduction of the SSM data and Some Empirical Results," International Convention of Asia Scholars 6 at Daejoen Convention Center, Daejoen, 6 August 2009.
- Hayashi, Yusuke, "Structural Change and Inequality in the Japanese Labor Market," The Fourth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia at Sendai Excel Hotel Tokyu, Sendai, 13 March 2010.
- Inagaki, Yusuke and Yusuke Hayashi, "Reexamination of Social Networks on Job Changes: the Case of Japanese Labor Market," International Network for Social network Analysis Sunbelt XXX at Riva del Garda Fiere Congressi Riva del Garda, Trento, 2 July 2010.
- Hayashi, Yusuke, "Job Mobility after the Economic Transformation: Cross-national Comparison of Japan and Korea," International Sociological Association World Congress Research Committee 28-07 at University of Gothenburg, Gothenburg, 13 July 2010.
- Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, " Changing Jobs and Inequality in a

Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan," Annual Meeting of American Sociological Association at Hilton Atlanta, Atlanta, 14 August 2010.

Imai, Jun and Yusuke Hayashi, "Employment deregulation and increasing fragmentation of workers' career in Japan"UC Riverside-Tohoku Joint Symposium at Tohoku University, Sendai, Japan 19th November 2010.

Imai, Jun and Yusuke Hayashi, "Making of a sphere of risky mobility: the new segmentation of labor market in Japan"German Institute for Japanese Studies Expert workshop: New employment risks in East Asia at DIJ Tokyo, Tokyo, Japan, 26th November 2010.

Hayashi, Yusuke, "Changes in Japanese Adolescents 2: Sexual behavior and Communication," The 10th Conference of Asia-Pacific Sociological Association at Hyatt Regency Kinaablu Hotel, KotaKinabalu, Malaysia 9th December 2010.

Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, "Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan" The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia at Westin Sendai, Sendai, 29th January 2011.

[古里由香里] (2011.4～)

古里由香里、「介護職の専門職化と職場環境に関わる問題の構造」数理社会学会大会（信州大学）、2011年9月6日

Yukari Furusato and Yoshimichi Sato, "A Paradoxical Relationship between Bonding Social Capital and Subjective Well-being" Tohoku-Stanford Summer School 2012, Tohoku University, Japan, July 2-6, 2012

Yukari Furusato and Yoshimichi Sato, "The Moderating Effect of Closeness of Community on the Relationship between Social Capital and Depression" The Fifth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference, Denver, Colorado, August 16, 2012

古里由香里・佐藤倫嘉「結束的ソーシャルキャピタルと主観的幸福観のパラドキシカルな関係」日本社会学会大会（札幌学院大学）、2012年11月3日

[余田翔平] (2008.4～2013.3)

- 余田翔平、「父不在高校生の教育アスピレーション」東北社会学会（東北学院大学）、2009年7月20日
- 余田翔平、「家族構造と地位達成—早期父不在者のライフコースに関する計量的研究—」、家族問題研究学会、東京、早稲田大学、2010年4月24日
- 余田翔平、「父不在層のライフコース—SSMデータを用いた時系列分析」第20回家族社会学会大会（成城大学）、2010年9月11日
- 余田翔平、「ひとり親家族と教育達成過程—家族構造とジェンダーによる不平等の形成」第83回日本社会学会大会（名古屋大学）、2010年11月6日
- Shohei, Yoda, "Changes in Japanese Adolescents 1: School, Gender and Family." The 10th Conference of Asia Pacific Sociological Association, Hyatt Regency Kinabalu, Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia, December 8-11, 2010.
- 余田翔平、「子ども期の家族構造と教育達成格差—二人親世帯／母子世帯／父子世帯の比較」第21回家族社会学会大会（甲南大学）、2011年9月11日
- 林雄亮・余田翔平、「日本女性のM字型就業パターンの再検討—2005年SSM調査による潜在クラス分析」第84日本社会学会大会（関西大学）、2011年9月17日
- 余田翔平・木村邦博、「現代高校生の規範意識—世代論か発達論か」東北社会学会（山形大学）、2012年7月16日
- 木村邦博・余田翔平、「高校生の規範意識の測定と潜在クラス分析」日本行動計量学会（新潟大学）、2012年9月14日
- 余田翔平、「女性の就業とディストレス」日本家族社会学会（お茶の水女子大学）、2012年9月16日
- Yoda, Shohei, "The Effects of Education on Marital Dissolution in Japan", The 11th Conference of the Asia Pacific Sociological Association (APSA) at the School of Social Sciences, Ateneo de Manila University, Philippines, 22-24th October 2012
- Yoda, Shohei, "Educational Differentials in Marital Stability in Japan," The Sixth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by

Young Scholars in Asia, Yonsei University, Seoul, South Korea, January
12-13, 2013.

余田翔平、「家族構造による教育達成格差の形成メカニズム」東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブセンター2012年度二次分析研究会 課題公募型研究 成果報告会1（東京大学本郷キャンパス 赤門総合研究棟5階 センター会議室）, 2013年3月13日.

3 大学院生・学部生等の受賞状況

稲垣佑典、平成22年度 日本社会心理学会優秀論文賞、2010年9月
安達智史、平成22年度 日本社会学会奨励賞（論文の部）、2010年11月
安達智史、平成23年度 関西社会学会大会奨励賞、2011年5月
高前田和平、平成23年度 東北大学総長賞（卒業論文）
「異質な成員間での社会統合の条件」、2012年3月
鈴木伸生、The Fifth Joint Japan-North America Mathematical Sociology
Conference Travel Grant、2012年8月
富田芽、平成24年度 東北大学総長賞（卒業論文）
「協力行動を促す罰と報酬の効果ーレジ袋削減への取り組みからー」、
2013年3月

4 日本学術振興会研究員採択状況

2009年度 DC2採用1名、PD受け入れ1名、RPD受け入れ1名
2010年度 DC2採用1名、PD受け入れ1名
2011年度 DC1採用1名、DC2採用2名
2012年度 DC1採用1名、DC2採用1名、PD受け入れ1名
2013年度 DC1採用1名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2010年度 学部生 計1名 ウプサラ大学 スウェーデン
2012年度 学部生 計1名 カリフォルニア大学 アメリカ合衆国
2013年度 大学院 計1名 ヴィクトリア大学 カナダ

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
09	1(0)	4	5(0)
10	0(2)	0	0(2)
11	0(5)	0	0(5)
12	0(5)	3	3(5)
13	1(7)	2	3(7)
計	2(19)	9	11(19)

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
09	0	0	0
10	1	0	1
11	0	1	1
12	0	0	0
13	0	1	1
計	1	2	3

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

本郷正武、和歌山県立医科大学医学部、2010年度
林雄亮、立教大学社会学部、2011年度
針原素子、東京女子大学現代教養学部、2011年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員 1名
通訳 0名
ジャーナリスト 1名
出版社社員 0名

8 客員研究員の受け入れ状況

2012年度 Shu-Yuan Yang（台湾、私費）

9 外国人研究者の受け入れ状況

2009 年度	Mary Brinton 客員教授
2010 年度	Hyunjoon Park 客員准教授
2012 年度	Karen Shire 非常勤講師

10 刊行物（専攻分野刊行のもの）

本研究室では、全国学会、もしくは海外での研究成果の報告を奨励していることから、研究室独自の定期刊行物の刊行はおこなっていない。（なお、研究室構成員は、これまで、日本社会学会、数理社会学会、行動計量学会の機関誌編集委員長となり、内外の他学会機関紙の編集委員担当も含め、学術情報の発信には積極的に貢献している。）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2009 年度

社会階層と社会移動図書刊行研究会事務局
 東北大学教育文化研究会事務局
 数理社会学会研究事務局

2010 年度

社会階層と社会移動図書刊行研究会事務局
 東北大学教育文化研究会事務局
 数理社会学会研究事務局

2011 年度

社会階層と社会移動図書刊行研究会事務局
 東北大学教育文化研究会事務局
 移動レジャー研究会事務局
 数理社会学会編集事務局
 SSP 研究会数理・実験セクション事務局

2012 年度

東北大学教育文化研究会事務局
 移動レジャー研究会事務局
 数理社会学会編集事務局
 SSP 研究会数理・実験セクション事務局

2013 年度

東北大学教育文化研究会事務局
移動レジーム研究会事務局
SSP 研究会数理・実験セクション事務局

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2009 年度

東北大学教育文化研究会 「学校生活と社会に対する高校生の意識」
第 1 回調査 (2010 年 3~4 月)

2010 年度

東北大学教育文化研究会 「学校生活と社会に対する高校生の意識」第
2 回調査 (2010 年 9~11 月)

2011 年度

東北大学教育文化研究会 「学校生活と社会に対する高校生の意識」第
3 回調査 (2011 年 8~10 月)

第 3 回 SSP 研究会「社会階層と意識に関する z-Tree 実験」 (2011 年 12
月)

2012 年度

東北大学教育文化研究会 「学校生活と社会に対する高校生の意識」第
4 回調査 (2012 年 8 月~10 月)

1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

過去 5 年間における最大の成果は 2008 年度にグローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」が採択されたことである。行動科学研究室では、佐藤嘉倫教授がこの拠点リーダーとなり、他の教員も全員、事業推進担当者としてこのプログラムに関わった。このグローバル COE プログラムを通じて、行動科学専攻分野の大学院生の教育にも力を入れた。その成果の一環として、博士学位授与件数は、2009 年度に 1 件、2011 年度に 2 件、2012 年度に 3 件出ており、健闘している。今後は、後期 3 年で博士学位論文を提出する数を増やせるよう、指導を行っていきたい。

学部生の教育については、これまでも社会調査をおこなうためのトレーニングを体系的に組んできたが、2004 年度から実施された「社会調査士資格」の認

定カリキュラムより、多くの学生が社会調査を通じて教育の成果を社会に還元してくれることを願っている。なお、一般社団法人社会調査協会では、原純輔が理事として尽力している。また、木村邦博は2009年9月から2011年3月まで、および2011年11月から、社会調査協会の機関誌『社会と調査』の専門査読委員を依頼された。

学会活動では、教員および大学院生とも積極的に学会運営および報告に寄与している。数理社会学会、および行動計量学会では、ほぼ毎年登壇しており、活発な議論を展開している。今後は、上記の研究プロジェクトに関する数多くの報告、特に国際学会での報告を期待している。

学会役員としても、大きく貢献してきた。数理社会学会では、浜田宏が理事をつとめている（2009年度～2012年度）。（なお、数理社会学会に関しては、原純輔、海野道郎、佐藤嘉倫がともに会長経験者である。）日本社会学会においても、佐藤嘉倫が世界社会学会議組織委員（2008年度～）および学会英文雑誌担当の理事（副編集長）として学会の国際化活動を支えている。また2006年度からは2009年度まで海野道郎が、2010年度から2012年度までは原純輔が財務理事として、日本社会学会の財務運営を担当している。また佐藤嘉倫は、国際社会学会理事（2006年度～現在）および合理的選択部会会長（2006年度～2010年度）、同部会理事（2010年度～）として国際社会学会に貢献するとともに、アメリカ社会学会「合理性と社会」部会長（2011年度）、評議員（2010年度、2012年度）としてアメリカ社会学会にも貢献している。木村邦博は、日本教育社会学会編集委員会委員（2007年10月～2011年9月）をつとめたほか、現在は日本行動計量学会欧文機関誌編集委員会委員（2009年度～）・同学会広報活動委員会委員（2012年度～）もつとめている。

浜田宏は文部科学省学術調査官を兼任して（2010年8月～2012年7月）、新学術領域研究を中心とする全国の最先端研究プロジェクトの推進を支援した。グローバルCOEプログラムをはじめ、多くの大規模な研究プロジェクトが本研究室を中心に進行する一方で、事務局機能が肥大化しているのも事実である。幸い、近隣の他大学の教員や、本研究室を修了した研究者が積極的にプロジェクトを担っており、同時並行で研究が進んでいる。今後も他大学との連携を図り、事務局体制をより一層強化することが求められよう。

Ⅲ 教員の研究活動（2009～2013年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

[佐藤嘉倫]

佐藤嘉倫・有田伸「全球化、地方制度与日本中産階級」、李春玲（編）、『比較視野下的中産階級形成』、北京：社会科学文献出版社、2009（中国語）

Sato, Yoshimichi, "Space, Inequality, and Social Capital: The Case of Tokyo," *Journal of Contemporary Society and Culture*, Vol. 28, 37-48 (Korean), 181-192 (English), 2009

Sato, Yoshimichi, "Are Asian Sociologies Possible?: Universalism versus Particularism," Michael Burawoy, Mau-kuei Chang, and Michelle Fei-yu Hsieh (eds.), *Facing An Unequal World: Challenges for A Global Sociology vol. 2: Asia*, Institute of Sociology, Academia Sinica and Council of National Associations of International Sociological Association, 192-200, 2010

Sato, Yoshimichi, "Stability and Increasing Fluidity in the Contemporary Japanese Social Stratification System," *Contemporary Japan*, 22-1&2: 7-21, 2010

Sato, Yoshimichi, "A Comparative Study of Trust in Japan and Korea: How Can We Solve Korean Puzzles in the Study of Trust?" Hyun-Chin Lim, Wolf Schafer, and Suk-Man Hwang (eds.), *New Asias: Global Futures of World Regions*, 209-225, Seoul: Seoul National University Press, 209-225, 2010

Imai, Jun and Yoshimichi Sato, "Regular and Non-Regular Employment as an Additional Duality in Japanese Labor Market: Institutional Perspectives on Career Mobility," Yoshimichi Sato and Jun Imai (eds.), *Japan's New Inequality: Intersection of Employment Reforms and Welfare Arrangements*, Melbourne: Trans Pacific Press, 2011

Sato, Yoshimichi, "Institutions and Inequality in the Status Attainment Process :A Theoretical Note," 佐藤嘉倫（編），『現代日本の階層状況の解明—ミクローマクロ連結からのアプローチ— 第1巻 社会階層・社会移動』，科学研究費補助金研究成果報告書，1-13，2011

- 林雄亮・佐藤嘉倫，「流動化する労働市場と職業キャリアの格差」，盛山和夫・片瀬一男・神林博史・三輪哲（編）『日本の社会階層とそのメカニズム—不平等を問い直す』，東京：白桃書房，2011
- 佐藤嘉倫・林雄亮，「現代日本の格差の諸相—転職とワーキングプアの問題を中心に—」，佐藤嘉倫・尾嶋史章（編）『現代の階層社会 1 格差と多様性』，東京：東京大学出版会，2011
- Sato, Yoshimichi, “Does Mathematical Sociology Contribute to the Progress of Sociology?” 『理論と方法』，第 26 卷第 2 号、243-252 頁、数理社会学会、2011
- Sato, Yoshimichi, “Stability and Increasing Fluidity in the Contemporary Japanese Social Stratification System,” Humbert, Marc and Yoshimichi Sato (eds.), *Social Exclusion: Perspectives from France and Japan*, Trans Pacific Press, 8-19, 2012
- 佐藤嘉倫，「正規雇用と非正規雇用——日本における格差問題——」，佐藤嘉倫・木村敏明（編）『不平等生成メカニズムの解明——格差・階層・公正』，15-34，京都：ミネルヴァ書房，2013
- Sato, Yoshimichi, “Mathematical Sociology in Japan: Its Powerful Development and a Problem,” *International Journal of Japanese Sociology*, 22-1: 16–31, 2013
- Sato, Yoshimichi, “Rational Choice Theory,” (Updated), *Sociopedia*, 2013.
(<http://www.sagepub.net/isa/admin/viewPDF.aspx?&art=RationalChoice2013.pdf>)
- Sato, Yoshimichi, “Social Capital,” *Sociopedia*, forthcoming
[木村邦博]
- 木村邦博「『問い』を主題とした学説研究の重要性—科学としての社会学と歴史学としての社会学史の発展のために—」（特集 学説研究と数理・計量社会学）『社会学年報』、No.38、31-41 頁、東北社会学会、2009
- Kimura, Kunihiko, “Sex-Based Discrimination Trends in Japan, 1965-2005: The Gender Wage Gap and the Marriage Bar,” pp.156-171 in *Discrimination in an Unequal World*, edited by Miguel Centeno and Katherine S. Newman. New York: Oxford University Press. 2010

Kimura, Kunihiro, "Gender-Based Discrimination, Inequality, and Marriage." Pp. 1-13 in *Minorities and Diversity*, edited by Kunihiro Kimura. Melbourne: Trans Pacific Press. 2011

[浜田 宏]

浜田宏「相対リスク回避モデルの再検討—Breen and Goldthorpe モデルの一般化」『理論と方法』第 24 巻第 1 号、数理社会学会、57-76 頁、2009

浜田宏「N 人ジレンマの提携形ゲーム」『理論と方法』第 24 巻第 2 号、317-332 頁、数理社会学会、2009

Atsushi Ishida, Hiroshi Hamada, Kenji Kosaka. "Simulation Analysis of the Effects of the Global Redistribution of Wealth on Subjective Well-being in the World." *Kwansei Gakuin University Social Sciences Review*. Vol. 14: 1-20. 2009

浜田宏「差別をめぐる相互行為のダイナミクス—演繹的研究のコアとしての数理モデル」『フォーラム現代社会学』第 9 号、42-51 頁、2010

浜田宏・七條達弘「異質な集団における相対的剥奪モデル」『理論と方法』第 25 巻第 1 号、107-123 頁、2010

Hamada, Hiroshi and Yusuke Hayashi, "Impact of Change in Household Composition on Poverty and Inequality in Japan," Yoshimichi Sato and Jun Imai (eds.), *Japan's New Inequality: Intersection of Employment Reforms and Welfare Arrangements*, Trans Pacific Press. 2011

浜田宏・石田淳「望ましい収入はどう決まるか？収入アスピレーション・レベルの最適化モデル」齊藤友里子・三隅一人（編）『現代の階層社会 3—流動化のなかの社会意識』東京大学出版:233-246、2011

Hiroshi Hamada, 2012, "A Model of Class Identification: Generalization of the Fararo-Kosaka Model using Lyapounov's Central Limit Theorem," *Kwansei Gakuin University School of Sociology Journal*. Vol.114:21-33.

塩谷芳也・金澤悠介・浜田宏. 2012. 「ピネット調査による階層帰属メカニズムの検討」『理論と方法』52(Vol.27 No.2):243-258.

浜田宏. 2012. 「線形結合モデルは科学的説明たりうるか？—階層帰属意

識研究における計量と数理の融合」『理論と方法』52(Vol.27 No.2):259-276.

Kosaka, Kenji., Atsushi Ishida, and Hiroshi Hamada, 2013, "A formal-theoretic approach to China puzzles: An application of relative deprivation theory to 'unhappy growth' and differential migrant workers' subjective well-being." 『中国都市研究』(掲載決定).

Ishida, Atsushi., Kenji Kosaka, and Hiroshi Hamada, 2013, "A Paradox of Economic Growth and Relative Deprivation." Journal of Mathematical Sociology.(掲載決定)

浜田宏,2013, 「数理社会学の普及に関する数理社会的考察」『ソシオロジ』57(3):127-134, 2013.

浜田宏. 2013年「人はどんなときに不満を感じるのか? 相対的剥奪の数理モデル」盛山和夫(編)『モデルで読み解く公正と不平等』有斐閣(刊行予定)

浜田宏. 2013年「教育の普及は格差を解消させるのか? 教育達成における出身階層間の不平等」盛山和夫(編)『モデルで読み解く公正と不平等』有斐閣(刊行予定)

浜田宏. 2013年「数理モデルによる不平等と主観的厚生分析」佐藤嘉倫・木村敏明(編)『不平等生成メカニズムの解明』第9章. ミネルヴァ書房

[永吉希久子]

Nagayoshi, Kikuko, "Whose Size Counts?: Multilevel Analysis of Japanese Anti-Immigrant Attitudes Based on JGSS-2006", 『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集』9号、JGSS 研究所、157-174、2009

Nagayoshi, Kikuko, "Does Trust Need Commonality?: Effect of National Identity on Change of Trust", 『職業と家族とパーソナリティについての同一パネル長期追跡調査—平成16年~19年度科学研究費補助金研究成果報告書』、大阪大学、197-209、2009

永吉希久子「多文化状況における社会統合に対する信頼感の影響—JGSS-2008の分析から」、『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集』10号、JGSS 研究所、149-162、2010

永吉希久子「呼び戻される「国民」—移民制度の変遷にみられる「統治性」、『生権力論の現在』檜垣立哉(編)、勁草書房、91-132頁、2011

永吉希久子「シティズンシップ—誰が、なぜ外国人への権利付与に反対するのか?」、『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介（編）、勁草書房、90-116、2011

Nagayoshi, Kikuko, “Cross-National Analysis of the Relationship between National Identity and Social Trust: Liberal Nationalism Reconsidered” 『大阪大学人間科学部紀要』37号、大阪大学人間科学研究科、21-40、2011

Nagayoshi, Kikuko, “Support of Multiculturalism, but for Whom?: Effects of Ethno-National Identity on the Endorsement of Multiculturalism in Japan” *Journal of Ethnic and Migration Studies*, 37(5), Routledge, 561-578, 2011

Hjerm, Mikael and Nagayoshi, Kikuko, “The Composition of the Minority Population as a Threat: Can Real Economic and Cultural Threats Explain Xenophobia?”, *International Sociology*, International Sociological Association, forthcoming, 2012

宮田直子・永吉希久子、「仕事人間や会社人間だった中高年男性は社会参加できるのか」、『パネルデータでみる中高年の意識変容』、吉川徹（編）、ミネルヴァ書房、101-117、印刷中

永吉希久子、「日本人の排外意識に対する分断労働市場の効果」『社会学評論』249号、1-17、2012

永吉希久子・中室牧子、「移民の子どもの教育に関する一考察」『移動の時代を生きる』、大西仁・吉原直樹監修、東信堂、43-90、2012

永吉希久子、「スウェーデンの反差別法運用とその限界」『東北大学文学研究科 研究紀要』62号、187-208、2013

永吉希久子、「制度が生み出す不平等—日本とスウェーデンの比較から」『不平等生成メカニズムの解明』、佐藤嘉倫・木村敏明（編）、ミネルヴァ書房、79-97、2013

Nagayoshi, Kikuko, 2013, “Citizenship and Foreigner’s Rights in Japan,” *Japanese Perceptions of Foreigners*, Shunsuke Tanabe (ed.), Trans Pacific Press, 56-60, 2013（印刷中）

永吉希久子、「多文化主義か同化主義か？—多文化主義の市民的徳性への影響の国際比較」『民主主義の「危機」—国際比較調査からみる市民意識』田辺俊介（編）、勁草書房、2013年10月予定

[本郷正武]（～2010.3）

本郷正武・星敦士「スローフード運動における良心的支持者—誰が『食』のオルタナティブ運動を担っているのか」『甲南大學紀要 文学編』、151号、1-21頁、2008

本郷正武・蘭由岐子・大北全俊・若生治友「いわゆる「集団告知」の多声的記述」、好井裕明（編）『被害当事者・家族のライフヒストリーの社会学的研究—薬害 HIV 感染被害問題を中心に』（平成 17 年～19 年度科学研究費補助金（基盤研究(B) 研究成果報告書）、49-65 頁、2008

本郷正武「医師—患者間の「すれ違い」が招来した問題系—いわゆる「集団告知」の多声的記述」『文化』73（1・2）、pp. 19-38、2009

本郷正武「『吊い』としての訴訟運動参加—感染被害者 H p 氏の場合」山田富秋・種田博之編『「薬害 HIV」問題経験の社会学的研究—ナラティブ・アプローチから』（平成 19 年～21 年度科学研究費補助金（基盤研究(B) 研究成果報告書）、pp. 29-43、2010

[川嶋伸佳]（2012.4～）

川嶋伸佳「社会心理学から心の文化差へ」、サトウタツヤ・若林宏輔・木戸彩恵（編）『社会と向き合う心理学』、pp.21-32、2012

川嶋伸佳、「ミクロ公正感と社会階層：ふさわしさ知覚の効果の検証」、『Center for the Study of Social Stratification and Inequality (CSSI) Working Paper Series』、No.3、2012 年

川嶋伸佳・大淵憲一、「不平等と公正感」、佐藤嘉倫・木村敏明（編著）『不平等生成メカニズムの解明：格差・階層・公正』、pp.299-320、2013 年

1-2 著書・編著

[佐藤嘉倫]

佐藤嘉倫（編）『現代日本の階層状況の解明—ミクロ—マクロ連結からのアプローチ』、科学研究費補助金研究成果報告書（全 3 分冊）、2011

Sato, Yoshimichi and Jun Imai (eds.), *Japan's New Inequality: Intersection of Employment Reforms and Welfare Arrangements*, Melbourne: Trans Pacific Press, 2011

佐藤嘉倫・尾嶋史章（編）『現代の階層社会 1 格差と多様性』、東京：東京大学出版会、2011

Marc Humbert and Yoshimichi Sato (eds.), *Social Exclusion: Perspectives from France and Japan*, Melbourne: Trans Pacific Press, 2012

佐藤嘉倫・木村敏明（編）『不平等生成メカニズムの解明——格差・階層・公正』，京都：ミネルヴァ書房，2013

佐藤嘉倫（監修）『社会階層調査研究資料集（全7巻・別冊2）：2005年SSM調査報告書』，東京：日本図書センター，2013

[木村邦博]

Kimura, Kunihiro, ed. *Minorities and Diversity*. Melbourne: Trans Pacific Press. 2011

[本郷正武]（～2010.3）

本郷正武『HIV/AIDSをめぐる集合行為の社会学』、ミネルヴァ書房、2007

本郷正武「いわゆる「集団告知」の多声的記述」『医師と患者のライフストーリー——輸入血液製剤によるHIV感染問題調査研究 最終報告書 第一分冊 論考編』松籟社、478-501頁、2009

本郷正武「「薬害HIV期」を生きた医師のライフストーリー——マイノリティ意識に裏打ちされた医師観の形成」『医師と患者のライフストーリー——輸入血液製剤によるHIV感染問題調査研究 最終報告書 第一分冊 論考編』松籟社、145-167頁、2009

本郷正武「「牽制し合う」意思—患者関係」『医師と患者のライフストーリー——輸入血液製剤によるHIV感染問題調査研究 最終報告書 第一分冊 論考編』松籟社、192-218頁、2009

本郷正武「NPO・ボランティア「良心的支持者」からなる集合行為」早坂裕子・広井良典・天田城介編『社会学のつばさ』ミネルヴァ書房、pp. 223-236、2010

本郷正武「医療をめぐる社会運動」『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房、2010

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

[佐藤嘉倫]

佐藤嘉倫「俯瞰する力、具体的に堪える力」『文学部・文学研究科ブックレット 考えるということ』第4巻、2-9頁、2009

Sato, Yoshimichi, “Review: Civil Society What and How: Jeffrey C. Alexander,

- The Civil Sphere. New York and Oxford: Oxford University Press, 2006,”
International Sociology, Vol. 24, No. 2, 262-272, 2009
- Sato, Yoshimichi, “Reviews: Locating Science: Hiromi Mizuno, Science for the
Empire: Scientific Nationalism in Modern Japan. Stanford, CA: Stanford
University Press, 2009,” *International Sociology*, Vol. 25, 285-288, 2010
- Sato, Yoshimichi, “Rational Choice Theory,” *Sociopedia*, 2010
- 佐藤嘉倫「現代日本の階層調査」日本社会学会社会学事典刊行委員会（編
集）『社会学辞典』、378-379 頁、丸善、2010
- 佐藤嘉倫「『思いつき』を大切に」、『曙光（東北大学全学教育広報）』、
No. 31, 8-9, 2011
- 佐藤嘉倫「社会階層・社会移動調査をめぐる国際比較の困難性と可能性—
2005 年 SSM 調査の経験から—」、『社会と調査』、第 7 号: 12-17, 2011
- 佐藤嘉倫「私はなぜ貧乏なのか？—社会階層論の根本問題とこれから」、
『UP』、No .469: 7-12, 2011
- 佐藤嘉倫「公平な分配はいかにして社会にひろがるのか？—公平な分配と
シミュレーション—」、『学術の動向』、17-2: 21-25, 2012
- 佐藤嘉倫「社会調査」、「格差」、「成層」、「職歴移動」、「SSM」、見
田宗介（編集顧問）、大澤真幸・吉見俊哉・鷲田清一（編集委員）『現
代社会学事典』、597-599 頁, 173 頁, 762 頁, 675-676 頁, 105 頁, 東京:
弘文堂, 2012
- 佐藤嘉倫「数理社会学ワンステップアップ講座(5) プレゼンテーションの
技法——日本語報告から英語報告まで」、『理論と方法』、27-2: 307-312,
2012
- 佐藤嘉倫「公平な分配はいかにして社会にひろがるのか？—公平な分配と
シミュレーション—」、宮島喬・船橋晴俊・友枝敏雄・遠藤薫（編著）
『グローバルゼーションと社会学——モダニティ・グローバリティ・
社会的公正』、京都: ミネルヴァ書房, 265-270 頁, 2013
- [木村邦博]
- 木村邦博「競争と協同」日本社会心理学会（編集）『社会心理学事典』、
342-343 頁、丸善、2009
- 木村邦博「階層意識」松原望・美添泰人（編集委員長）『統計応用の百科
事典』、466-469 頁、丸善出版、2011

[浜田宏]

浜田宏「書評リプライ 武藤氏の書評に答える」『理論と方法』、第 24 巻
第 1 号、139-141 頁、数理社会学会、2009

浜田宏「階層意識の数理社会学」日本社会学会社会学事典刊行委員会(編)
『社会学事典』丸善株式会社、2010

浜田宏. 「平等／不平等」「フォーマル・セオリー」「所得格差」「ジニ
係数」「FK モデル」「アトキンソン尺度」「タイルの T」「ローレン
ツ曲線」「スタウファー」「ブードン」『現代社会学事典』弘文堂、
2013

[永吉希久子]

永吉希久子「外生変数／内生変数」、「確証的因子分析／探索的因子分析」、
「構造方程式モデル」、「主成分分析」、「直接効果／媒介効果」大
澤真幸・吉見俊哉・鷲田清一編、『現代社会学事典』、155 頁、174 頁、
410 頁、641 頁、892 頁、弘文堂、2012

[本郷正武] (～2010.3)

本郷正武「書評に答えて（拙著『HIV／AIDS をめぐる集合行為の社会学』
に対する宮垣元氏の書評に対して）」『ソシオロジ』166 号、146-150
頁、2009

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

[佐藤嘉倫]

Sato, Yoshimichi, and Shin Arita, “Globalization, Local Institutions, and Middle
Classes: A Comparative Study of Social Mobility of Middle Classes in Japan
and Korea,” Conference on Dilemmas of the Middle Class Around the World,
Princeton University, April 24-25, 2009.

Sato, Yoshimichi, and Yusuke Hayashi, “Change and Stability in the Social
Stratification System in Contemporary Japan: Coexistence of Stability and
Fluidization,” 2009 Spring Meeting RC28, Renmin University, May 14,
2009.

Sato, Yoshimichi, “Change and Stability in the Social Stratification System in
Contemporary Japan: Coexistence of Stability and Fluidization,” Joint

- Symposium on Globalization, Inequality and Social Stratification,
University of California, Riverside, May 29-30, 2009.
- Sato, Yoshimichi, "Social Capital and Inequality: An Agent-based Model of Trust, Opportunity, and Structural Holes," The 104th Annual Meeting of the American Sociological Association, San Francisco, August 10, 2009.
- Sato, Yoshimichi, "Space, Inequality, and Social Capital: The Case of Tokyo," Brain Korea 21 Workshop, Korea University, August 20, 2009.
- Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, "Change and Stability in the Social Stratification System in Contemporary Japan: Coexistence of Stability and Fluidization," 『日仏シンポジウム 排除なき社会をつくることはできるか: 日本とフランスの視点』, 日仏会館, 2009年10月17-18日.
- Sato, Yoshimichi, "Effect of Change in the Japanese Welfare-Employment Regime on Social Mobility between Regular and Non-regular Workers," Employment Protection and Inequality Workshop, Harvard University, November 6, 2009.
- Sato, Yoshimichi and Shin Arita, "A Comparative Study of Social Mobility of Middle Classes in Japan and Korea," Korean Studies Colloquium and Issues in Contemporary East Asia Lecture Series, University of Pennsylvania, December 3, 2009.
- Sato, Yoshimichi and Shin Arita, "A Comparative Study of Social Mobility of Middle Classes in Japan and Korea," Inequality Research Group Seminar, Chung-Ang University, December 19, 2009.
- Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, "Change and Stability in the Social Stratification System in Contemporary Japan: Coexistence of Stability and Fluidization," Équipe de Recherche sur les Inégalités Sociales Seminar, Équipe de Recherche sur les Inégalités Sociales, February 9, 2010.
- Sato, Yoshimichi, "Institutions and Agency: A Theoretical First Step," The Fourth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Sendai Excel Hotel Tokyu, March 13-14, 2010.
- Sato, Yoshimichi, "Does Agent-based Modeling Survive in Sociology?" The "Social Science and Social Computing: Steps to Integration"

- Workshop, Hyatt Regency Waikiki Resort and Spa, May 22-23, 2010.
- Sato, Yoshimichi, "Social Networks, Utility Functions, and Social Capital," The XVII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, July 11-17, 2010.
- Sato, Yoshimichi, "Why Did Asian Sociologists Not Conceive "Social Capital"? Universalism versus Particularism," The XVII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, July 11-17, 2010.
- Sato, Yoshimichi, "The Emergence of Social Structure as A Micro-Macro Link: Social Networking and Beyond," The 105th Annual Meeting of the American Sociological Association, Atlanta, August 14-17, 2010.
- Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, "Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan," The 105th Annual Meeting of the American Sociological Association, Atlanta, August 14-17, 2010.
- Sato, Yoshimichi, "New Middle Class at Risk in Japan?" The Second UC Riverside-Tohoku Joint Symposium, Tohoku University, November 19-20, 2010.
- Sato, Yoshimichi, "Space, Inequality, and Social Capital: The Case of Tokyo," The 10th Conference of the Asia Pacific Sociological Association, Kota Kinabaku, December 8-11, 2010.
- Sato, Yoshimichi, "Institutions and Inequality in the Status Attainment Process: A Theoretical Note," The International Symposium on Risk, Social Stratification, and Changes in Institutions, Bryn Mawr College, February 3-4, 2011.
- Sato, Yoshimichi, "Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan," The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Westin Sendai, January 29-30, 2011.
- Sato, Yoshimichi, "Japanese Youth without Bright Perspectives for Future," The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by

- Young Scholars in Asia, Westin Sendai, January 29-30, 2011.
- Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, “Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan,” International Conference on Internal Cleavages and Social Peace in East Asia, Chungnam University, Daejeon, South Korea, June 24, 2011.
- Sato, Yoshimichi, “New Middle Class at Risk in Japan?” The 106th Annual Meeting of the American Sociological Association, Las Vegas, August 20-23, 2011.
- Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, “Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan,” 台湾・中央研究院社会学研究所 October 27, 2011.
- Sato, Yoshimichi, “New Middle Class at Risk in Japan?” Joint Symposium of UC Riverside and the CSSI of Tohoku University, UC Riverside, February 2-3, 2012.
- Sato, Yoshimichi, “New Middle Class at Risk in Japan?” Workshop on the Frontiers of Social Research, The Chinese University of Hong Kong, February 13-14, 2012.
- Sato, Yoshimichi and Shin Arita, “Educational Return and Social Inheritance in Japan,” International Comparative Workshop on Inequality in Educational Returns in 14 Countries European University Institute, Florence, June 21-22, 2012.
- Sato, Yoshimichi, “Coverage of Social Capital and Utility Function of Actors Involved: Toward a Clearer Understanding of Functions of Social Capital,” The Second ISA Forum of Sociology, Buenos Aires, Argentina, August 1-4, 2012
- Furusato, Yukari and Yoshimichi Sato, “A Paradoxical Relationship between Bonding Social Capital and Subjective Well-being,” The Fifth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference, Denver, August 16, 2012.
- Sato, Yoshimichi, “Who Become Liberalists? An Empirical Study of the Choice between Liberalism and Libertarianism,” The 107th Annual Meeting of the American Sociological Association. Denver, August 17-20, 2012.

- Sato, Yoshimichi, "Non-regular Workers Trapped in the Gap between Changing Reality and (Almost) Unchanged Institutions," International Symposium on Asian Perspectives on Social Stratification and Inequality, Tohoku University, October 27-28, 2012.
- Sato, Yoshimichi, "Non-regular Workers Trapped in the Gap between Changing Reality and (Almost) Unchanged Institutions," The 2012 Australian Sociological Association Annual Meeting, The St Lucia campus of The University of Queensland, November 26-29, 2012.
- Sato, Yoshimichi, "Social Stratification and Inequality in Contemporary Japan: Coexistence of Stability and Increasing Fluidity," The 2012 Australian Sociological Association Annual Meeting, The St Lucia campus of The University of Queensland, November 26-29, 2012.
- Sato, Yoshimichi, "Non-regular Workers Trapped in the Gap between Changing Reality and (Almost) Unchanged Institutions," The 7th International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Yonsei University, January 12-13, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Non-regular Workers Trapped in the Gap between Changing Reality and (Almost) Unchanged Institutions," Joint Symposium of UC Riverside and CSSI, Tohoku University, Tohoku University, January 25-26, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Non-regular Workers Trapped in the Gap between Changing Reality and (Almost) Unchanged Institutions," The Third ISA Conference of the Council of National Associations, Middle East Technical University, Ankara, May 13-16, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Institutions and Agency in the Creation of Social Inequality," (March 18, 2013), Closed Workshop on Social Inequality in Japan: A Reassessment, DIJ (German Institute for Japanese Studies), March 18-19, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Institutions and Agency: Theoretical First Step," Summer School, Stanford University, June 18-21, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Rational Choice in the Creation of Social Stratification," Section on Rationality and Society Pre-Conference. Advances in Rational

- Choice Theory and Social Research, New York, August 9, 2013.
- Nagayoshi, Kikuko and Yoshimichi Sato, “Who Supports Redistributive Policies in Contemporary Japan? Integrative Approach of Self-interest and Institutionalism Models,” The 108th Annual Meeting of the American Sociological Association, New York, August 10-13, 2013.
- Sato, Yoshimichi, “Difficulties in Comparative Studies of Social Stratification (tentative title),” International Conference on Survey Research Methodology, Academia Sinica, September 4-6, 2013.
- Sato, Yoshimichi, “Non-regular Workers Trapped in the Gap between Changing Reality and (Almost) Unchanged Institutions,” 2013 IOS-Tohoku Symposium on Social Change and Social Inequality in Taiwan and Japan, Academia Sinica, September 26-27, 2013.
- [木村邦博]
- Kimura, Kunihiro, “Explaining a Marriage Paradox: Call for the Computer Simulation Studies Based on a Simple Mathematical Model,” Workshop on Social Theory and Social Computing, Honolulu, Hawaii, USA, 2010年5月22日
- Kimura, Kunihiro, “Social Stratification and Relative Risk Aversion in the Japanese Context,” XVII World Congress of Sociology, International Sociological Association, Gothenburg, Sweden, 2010年7月17日
- Kimura, Kunihiro, “Can the Signaling Game Serve as a Model of Statistical Discrimination?” Pre-conference on Advances in Rational Choice Social Research at the 108th Annual Meeting of the American Sociological Association, New York, USA, 2013年8月9日
- Kimura, Kunihiro, “Education, Occupation, and Intellectual Flexibility in the Japanese Context,” 2013 IOS-Tohoku Symposium on Social Change and Social Inequality in Taiwan and Japan, Taipei, Taiwan, 2013年9月26日
- [浜田宏]
- Hiroshi Hamada, “A Model of Inequality and Educational Attainment in Japan,” A Tohoku University & NUS Joint Forum of Sociology & Stratification Studies, National University of Singapore, Singapore, February 18-19, 2009.

- Hiroshi Hamada, "A Probability Model for Educational Attainment,"
The Third International Symposium on Frontiers of Sociological
Inquiries by Young Scholars in Asia, Yonsei University, Seoul,
Korea, March 12-13, 2009
- Hiroshi Hamada, "A Rational Choice Model of Educational Attainment,"
The 9th Conference of the Asia Pacific Sociological Association,
Bali, Indonesia, June 13 -15, 2009
- Hiroshi Hamada, "A Model of Educational Attainment: Effect of Social
Origin." Logic, Game, Theory and Social Choice 6, University of
Tsukuba, Tsukuba, Japan, Aug 26-29, 2009
- Hiroshi Hamada, "A Model of Class Differentials in Educational
Attainment," 17th ISA world congress of sociology, Gothenburg,
Sweden, July 14, 2010
- Hiroshi Hamada and Jae-Woo Kim, "Evolution of Cultural Groups from
Parochial Cooperation: A Mathematical and Computational Study,"
82nd Annual Pacific Sociological Association Meeting, Seattle,
March 10-13, 2011.
- Jae-Woo Kim and Hiroshi Hamada, "Replicator Dynamic of Tag-based
Prisoner's Dilemma," American Sociological Association Meeting,
August 20, 2011, Las Vegas, NV.
- Ishida Atsushi, Kenji Kosaka, Hiroshi Hamada and Yutaka Maeda. 2012.
"Economic Growth and Paradoxes of Relative Deprivation" The 40th
World Congress of the IIS. Regular Session, "Emerging Frontiers of
Relative Deprivation Theory," 16-19 Feb 2012. Delhi, India,
- Kosaka, Kenji, Atsushi Ishida, and Hiroshi Hamada, 2012, "A Formal
Approach to the 'China Puzzles,' The 12th Conference of The Asia
Pacific Sociological Association, Mnila University, Mnila,
Phillipines, 22-24 October 2012.
- [永吉希久子]
- Nagayoshi, Kikuko, "Xenophobia as 'Banal Nationalism': Relationship between
Anti-Immigrant Attitudes and Social Security", MIM Seminar, Malmö
University, Sweden, (April 15, 2009)

- Nagayoshi, Kikuko, "Effect of Welfare Policies on Anti-Immigrant Attitudes: The Difference between Active Policies and Passive Policies", American Sociological Association 104th Annual Meeting, Hilton San Francisco, USA, August 7-11 2009
- Nagayoshi, Kikuko, 2010, "Effects of Multiculturalism Policies on Social Cohesion", Nordic Migration Conference 2010, Malmö University, Sweden, August 25-27, 2010
- Nagayoshi, Kikuko, "The Effects of Group Positions on Individual Attitudes toward Immigrants", Joint Symposium of UC Riverside and CSSI Tohoku University, University of California Riverside, USA, February 1-3, 2012
- Nagayoshi, Kikuko, Tanabe, Shunsuke and Hamada, Kunisuke, 2012, "The Effects of Group Positions on Individual Attitudes toward Immigrants: Analysis of Japanese Case", American Sociological Association 107th Annual Meeting, Colorado Convention Center & Hyatt Regency, USA, August 17-20, 2012
- Nagayoshi, Kikuko, "Political Participation and Right Wing Attitudes in Japan", CSSI-IOS Symposium, Tohoku University, Japan, September 28-29, 2012
- Nagayoshi, Kikuko, "Effects of Social Cleavages on Support for Welfare Reform", Joint Symposium of UC Riverside and CSSI, Tohoku University, Japan, January 25-26, 2013
- Nagayoshi, Kikuko and Yoshimichi Sato, "Who Supports Redistributive Policies in Contemporary Japan? Integrative Approach of Self-interest and Institutionalism Models", American Sociological Association 108th Annual Meeting, Hilton New York Midtown and Sheraton New York Hotel and Towers, USA, August 10-13, 2013
- [本郷正武] (～2010.3)
- Hongo, Masatake, "Constructing Identity as Conscience Adherents: Identity politics in Japanese AIDS NGOs," Collective Behavior & Social Movement Workshop (Hofstra Univ., Long Island, NY), August 9, 2007
- Hongo, Masatake, "Involving with Collective Activities as Conscience Adherents: AIDS Workshops in Japanese AIDS NGOs," Society for the Study of Symbolic Interaction Annual Meeting (New York), August 12,

2007

Hongo, Masatake, "Involving with Collective AIDS Activities as Conscience Adherents: Toward to Remedy of Isolated PWA/H in Japan," International Sociological Association, Research Committee on Social Movements, Collective Action and Social Change (RC48), Barcelona, Spain, September 6, 2008

(2) 国内学会

[佐藤嘉倫]

佐藤嘉倫 "Social Capital and Inequality: An Agent-based Model of Trust, Opportunity, and Structural Holes," 第48回数理社会学会大会, 北星学園大学, 2009年9月19-20日

佐藤嘉倫 "Why Did Asian Sociologists Not Conceive 'Social Capital'? Universalism versus Particularism," 第82回日本社会学会大会, 立教大学, 2009年10月11-12日

佐藤嘉倫 「数理社会学は社会学研究に役立つのか?」, 第50回数理社会学会, 獨協大学, 2010年9月11日

佐藤嘉倫, 「SSM調査について」, 一般社団法人社会調査協会 特別シンポジウム, 如水会館, 2010年11月14日

佐藤嘉倫, 「不平等の現状とその評価—社会学の視点から」, 社会階層と不平等教育研究拠点・東京セミナーシリーズ 第2回公開シンポジウム「公正な社会は可能か—日本の不平等再検討—」, 東北大学東京分室, 2011年2月12日

佐藤嘉倫, 「不平等の是正は可能か?—社会心理学の視点から」, 社会階層と不平等教育研究拠点・東京セミナーシリーズ 第2回公開シンポジウム「公正な社会は可能か—日本の不平等再検討—」, 東北大学東京分室, 2011年2月12日

佐藤嘉倫, 「公平な分配はどう社会に広がるのか?—コンピュータ・シミュレーションへの招待」, 日本学術会議社会学委員会社会理論分科会・公開シンポジウム「シミュレーションと社会—文理を結ぶ新しい方法論」, 日本学術会議大会議場, 2011年6月4日

古里由香里・佐藤嘉倫, 「結束的ソーシャルキャピタルと主観的幸福感の

パラドキシカルな関係」, 第 85 回日本社会学会, 札幌学院大学, 2012 年 11 月 3 日

Kobayashi, Jun, Mai Kagawa, and Yoshimichi Sato, “Structure of Labor Market in Japan: Complementing Roles of Human Capital and Social Capital,” 第 56 回数理社会学会大会, 関西学院大学, 2013 年 8 月 28 日

Sato, Yoshimichi, “Toward Clearer Conceptualization and Theorization of Social Capital: Focusing on Four Aspects of the Concept,” 第 86 回日本社会学会大会, 慶應義塾大学, 2013 年 10 月 12-13 日.

[木村邦博]

余田翔平・木村邦博「現代高校生の規範意識—世代論か発達論か?—」、第 59 回東北社会学会大会 (山形大学)、2012 年 7 月 16 日

木村邦博・余田翔平「高校生の規範意識の測定と潜在クラス分析」第 40 回日本行動計量学会大会 (新潟県立大学)、2012 年 9 月 14 日

木村邦博「家族データの収集と分析—その意義と課題—」(特別セッション「家族データの収集と分析」)、第 41 回日本行動計量学会大会 (東邦大学)、2013 年 9 月 4 日

[浜田宏]

浜田宏「演繹的研究のコアとしての数理モデル」第 60 回関西社会学会シンポジウム (京都大学)、2009 年 5 月 24 日

浜田宏「社会学における数理モデルの可能性」第 48 回数理社会学会大会 (北星学園大学)、2009 年 9 月 20 日

浜田宏「階層帰属意識の数理モデル—非同一な離散型一様分布による FK モデルの拡張」第 49 回数理社会学会 (立命館大学)、2010 年 3 月 8 日

浜田宏「教育達成における階層間格差の分布関数モデル—IEO モデルと RRA モデルの統合と一般化」第 50 回数理社会学会 (獨協大学)、2010 年 9 月 10 日

高坂健次・石田淳・浜田宏. 「相対的剥奪のパラドックス」第 51 回数理社会学会大会 (於: 沖縄国際大学). 2011 年 3 月 8 日.

浜田宏「階層帰属意識関する地位継承モデルと Fararo-Kosaka モデルの統合」第 53 回数理社会学会大会 (於: 鹿児島大学). 2012 年 3 月 14 日.

浜田宏「階層の再生産と階層意識—線型回帰モデル再考」シンポジウム「階層帰属意識の数理と実証分析」統計数理研究所（共同利用研究公開研究会）2012年2月25日

塩谷芳也・金澤悠介・浜田宏。「ピネット調査による社会的地位評価の分析」シンポジウム「階層帰属意識の数理と実証分析」統計数理研究所（共同利用研究公開研究会）。2012年2月25日

浜田宏。「階層帰属意識に関する地位継承モデルと Fararo-Kosaka モデルの統合」第53回数理社会学会大会（於：鹿児島大学）。2012年3月14日。

浜田宏。「不平等と相対的剥奪の理論・実証連結—z-Treeによる反復投資ゲーム実験」東北大学 GCOE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」構造と変動部門シンポジウム「相対的剥奪と不平等研究の新展開」仙台メトロポリタンホテル、仙台、2012年12月15日

前田豊・浜田宏。「所得分布の生成と相対的剥奪の z-tree 実験」統計数理研究所共同利用研究公開研究会（SSP 研究会）、2012年12月26日

[永吉希久子]

永吉希久子、「社会統合に対する多文化主義政策の影響—国際比較調査データの分析から」『関西社会学会第61回大会』、名古屋市立大学、2010年5月29-30日

永吉希久子、「市民的特性に対する多文化主義政策の効果—ISSP2003・2004を用いた国際比較研究」『2010年度二次分析研究会 参加者公募型研究 成果報告会』、東京大学、2011年2月4日

永吉希久子、「反移民意識に対する社会保障政策の影響—積極的社会保障政策と消極的社会保障政策の差に注目して」『第84回日本社会学会大会』、関西大学、2011年9月17-18日

永吉希久子、「外国人に対する権利付与への支持の規定要因—社会的権利と文化的権利の差に注目して」『第53回数理社会学会』、鹿児島大学、2012年3月14-15日

永吉希久子、「反差別法運用における集団間格差—スウェーデンの平等オンブズマンを事例として」、第85回日本社会学会、札幌学院大学、2012

年 11 月 3 日

永吉希久子、「労働者の再分配政策支持に対する構造改革の影響」、第 64 回関西社会学会大会、大谷大学、2013 年 5 月 18 日

永吉希久子、「外国籍者への権利付与意識の規定要因—意識の多様性に注目して」、第 56 回数理社会学会大会、関西学院大学、2013 年 8 月 27 日
[本郷正武]（～2010.3）

本郷正武「障害児をもつ親の会の「衰退」にみる親密圏の機能と役割」日本保健医療社会学会大会、熊本大学、2009 年 5 月 16 日
[川嶋伸佳]（2012.4～）

川嶋伸佳「多元的不公正感が抗議行動の実施に与える影響：社会経済的地位に基づく検討」、東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会合同大会、新潟大学、2012 年 7 月 14 日

川嶋伸佳、メディアへの接触が多元的不公正感に与える影響、社会心理学会第 53 回大会、つくば国際会議場、2012 年 11 月 18 日

川嶋伸佳・林洋一郎・大淵憲一、「職場における不公正経験の特徴の検討」、東北心理学会第 67 回大会、東北工業大学八木山キャンパス、2013 年 5 月 12 日

2 教員の受賞歴（2009～2013 年度）

IV 教員による競争的資金獲得（2009～2013 年度）

（1）科学研究費補助金

2009 年度

[佐藤嘉倫]

研究代表者 基盤研究(A) 「現代日本の階層状況の解明—ミクロ・マクロ連結からのアプローチ」、直接経費 970 万円、間接経費 291 万円

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生の社会的態度・スキルの形成」（2009（平成 21）年度—2012（平成 24）年度）、直接経費 1,800 千円、間接経費 540 千円

[浜田宏]

研究代表者 若手研究(B) 「合理的選択および確率モデルによる階層研

究」(2009年(平成21)–2011年(平成23年度))

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:高坂健次(関西学院大学)「グローバルな富の再分配と主観的幸福の増大」(2008(平成20)年度–2010(平成22)年度)

[本郷正武]

研究代表者 若手研究(B) 「「薬害 HIV 訴訟」プロセスにおける当事者の社会的孤立の検討」(2008(平成20)年度–2010(平成22)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:種田博之(産業医科大学)「『薬害 HIV』問題経験の社会学的研究—ナラティブ・アプローチから」(2007(平成19)年度–2009(平成21)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:長谷川公一(東北大学)「地域社会における温暖化防止施策とコラボレーション」(2007(平成19)年度–2009(平成21)年度)

2010年度

[佐藤嘉倫]

研究代表者 基盤研究(A) 「現代日本の階層状況の解明—ミクロ・マクロ連結からのアプローチ」、直接経費 1360万円、間接経費 408万円

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生の社会的態度・スキルの形成」(2009(平成21)年度–2012(平成24)年度)、直接経費 2,400千円、間接経費 720千円

[浜田宏]

研究代表者 若手研究(B) 「合理的選択および確率モデルによる階層研究」(2009年(平成21)–2011年(平成23年度))

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:高坂健次(関西学院大学)「グローバルな富の再分配と主観的幸福の増大」(2008(平成20)年度–2010(平成22)年度)

2011年度

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生の社会的態度・スキルの形成」(2009(平成21)年度–2012(平成24)年度)、直接経費 2,400千円、間接経費 720千円

[浜田宏]

研究代表者 若手研究(B) 「合理的選択および確率モデルによる階層研究」(2009年(平成21)–2011年(平成23年度))

研究分担者 基盤研究(S) 研究代表者:吉川徹(大阪大学)「現代日本における階層意識と格差の連関変動過程の実証的解明」、直接経費300万円、間接経費90万円(2011年(平成23)–2015年(平成27年度))

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:石田淳(関西学院大学)「グローバル化下での不平等社会における相対的剥奪—理論・実証的研究の刷新」(2011(平成23)年度–2013(平成25)年度)

[永吉希久子]

研究代表者 研究活動スタートアップ支援 「移民統合政策が移民の社会参加に与える影響についての実証研究」、直接経費70万円、間接経費21万円

2012年度

[佐藤嘉倫]

研究代表者 基盤研究(B) 「移動レジームの動態に着目した社会階層と雇用・生活リスクの融合的研究」、直接経費310万円、間接経費93万円

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生の社会的態度・スキルの形成」(2009(平成21)年度–2012(平成24)年度)、直接経費3,300千円、間接経費990千円

[浜田宏]

研究分担者 基盤研究(S) 研究代表者:吉川徹(大阪大学)「現代日本における階層意識と格差の連関変動過程の実証的解明」、直接経費300万円、間接経費90万円(2011年(平成23)–2015年(平成27年度))

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:石田淳(関西学院大学)「グローバル化下での不平等社会における相対的剥奪—理論・実証的研究の刷新」直接経費50万円、間接経費15万円(2011(平成23)年度–2013(平成25)年度)

[永吉希久子]

研究代表者 研究活動スタートアップ支援 「移民統合政策が移民の社

会参加に与える影響についての実証研究」、直接経費 70 万円、間接経費 21 万円

2013 年度

[佐藤嘉倫]

研究代表者 基盤研究(B) 「移動レジームの動態に着目した社会階層と雇用・生活リスクの融合的研究」、直接経費 300 万円、間接経費 90 万円

研究分担者 特別推進研究 研究代表者：白波瀬佐和子（東京大学）「少子高齢化からみる階層構造の変容と格差生成メカニズムに関する総合的研究」、直接経費 30 万円、間接経費 9 万円

[永吉希久子]

研究代表者 若手研究(B) 「反外国人意識形成メカニズムに対するミクスドメソッド研究」、直接経費 300 万円、間接経費 90 万円（2013（平成 25）年度-2015（平成 27）年度）

研究分担者 基盤研究(B) 「現代日本のナショナリズムの実証的解明」、直接経費 10 万円、間接経費 3 万円

研究分担者 基盤研究(B) 「価値意識と階層構造の変容にかんする比較社会学的研究」

(2) その他

2009 年度

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 10,010 万円、間接経費 3,003 万円

開催責任者 日本学術振興会・国際研究集会 「国際社会学会・社会学博士課程学生のための国際ラボラトリー」 4,291,386 円

[木村邦博]

事業推進担当者・マイノリティ研究部門長 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 10,010 万円、間接経費 3,003 万円

[浜田宏]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研

究拠点の世界的展開」、直接経費 10,010 万円、間接経費 3,003 万円

2010 年度

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究
拠点の世界的展開」、直接経費 11850 万円、間接経費 0 万円

申請者 公益財団法人野村財団国際交流（海外派遣）「日本の流動化する
労働市場と転職をめぐる階層格差の分析—第 105 回アメリカ社会学
会大会における論文報告と諸活動—」、20 万円

[木村邦博]

事業推進担当者・マイノリティ研究部門長 グローバル COE プログラム
「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 11850 万
円、間接経費 0 万円

[浜田宏]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研
究拠点の世界的展開」、直接経費 11850 万円、間接経費 0 万円

研究担当者 学術調査官受託研究「社会学に関する最新の学術動
向の調査研究」直接経費 65 万円

2011 年度

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究
拠点の世界的展開」、直接経費 9616.7 万円、間接経費 0 万円

研究代表者 公益財団法人村田学術振興財団研究助成「グローバリゼー
ションの進展に伴う労働市場構造の再編成と雇用・生活リスクの変動
に関する融合的研究」、200 万円

[木村邦博]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研
究拠点の世界的展開」、直接経費 9616.7 万円、間接経費 0 万円

[浜田宏]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研
究拠点の世界的展開」、直接経費 9616.7 万円、間接経費 0 万円

[永吉希久子]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研

究拠点の世界的展開」、直接経費 9616.7 万円、間接経費 0 万円

2012 年度

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究
拠点の世界的展開」、直接経費 9881.1 万円、間接経費 0 万円

[木村邦博]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研
究拠点の世界的展開」、直接経費 9881.1 万円、間接経費 0 万円

[浜田宏]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研
究拠点の世界的展開」、直接経費 9881.1 万円、間接経費 0 万円

[永吉希久子]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研
究拠点の世界的展開」、直接経費 9881.1 万円、間接経費 0 万円

[川嶋伸佳]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研
究拠点の世界的展開」、直接経費 9881.1 万円、間接経費 0 万円

V 教員による社会貢献（2009～2013 年度）

（1）政府・地方公共団体関係機関等の委員

佐藤嘉倫

1996 年 6 月－現在 東北地方ダム管理フォローアップ委員会委員

2006 年 8 月 20 日－現在 日本学術会議連携会員

2008 年 8 月 1 日－現在 先端科学（FoS）シンポジウム事業委員会専門
委員

2009 年 12 月 1 日－2010 年 11 月 30 日 日本学術振興会 科学研究費
委員会専門委員

2009 年 12 月 1 日－2010 年 11 月 30 日 文部科学省 科学研究費補助
金における評価に関する委員会の評価者

2009 年 12 月 1 日－2011 年 11 月 30 日 科学研究費 人文・社会系委員

2009 年 12 月 1 日－2011 年 11 月 30 日 科学研究費 研究成果公开发表
委員

2010年10月1日－2010年11月30日 科研費 「特定領域研究（がん分野）」事後評価委員

2010年12月1日－2011年11月30日 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員

浜田宏

2010年8月1日－2012年7月31日 文部科学省学術調査官

(2) 公開講座等の講師

佐藤嘉倫

2009年5月3日 財団法人メンタルケア協会 第107回メンタルケア・スペシャリスト養成講座（仙台会場）講師「将来の見えない若者たち—家庭・教育・労働市場の再構築」

2009年7月28日 Tohoku University Summer Program 2009 Lecturer “Trust and Inequality: An Agent-based Model of Effect of Market Attractiveness on Trusting Behavior.”

2009年8月2日 東北大学関東交流会 講師 「人間関係は犯罪を防げるか？ 東京を事例として」

2010年4月9日 東北大学リベラルアーツサロン 講師 「公平な分配はどう社会に広がるのか？ コンピュータ・シミュレーションへの招待」

2010年4月11日 財団法人メンタルケア協会 第120回メンタルケア・スペシャリスト養成講座基礎課程（仙台会場）講師 「人間関係は犯罪を防げるか？ 東京を事例として」

2010年8月5日 Tohoku University Summer Program 2010 Lecturer " An Agent-based Model of the Diffusion of Fairness."

2011年8月1日 Tohoku University Summer Program 2011 Lecturer “An Agent-based Model of the Diffusion of Fairness.”

2011年10月2日 財団法人メンタルケア協会 第130回メンタルケア・スペシャリスト養成講座基礎課程（仙台会場）講師 「人間関係は犯罪を防げるか？ 東京を事例として」

2012年3月13日 第53回数理社会学会大会ワンステップアップセミナー 「プレゼンテーションの技法——日本語報告から英語報告まで」（鹿児

島大学)

2012年5月20日 財団法人メンタルケア協会 第131回メンタルケア・
スペシャリスト養成講座基礎課程(仙台会場) 講師 「人間関係は犯
罪を防げるか? 東京を事例として」

2012年7月10日 Tohoku University Summer Program 2011 Lecturer “An
Agent-based Model of the Diffusion of Fairness.”

2012年9月5日 ELyT School in Sendai 2012 “Stability and Increasing
Fluidity of the Social Stratification System in Contemporary Japan.”

2012年10月6日 東北大学仙台セミナー「絆と社会——東日本大震災の
教訓」鼎談(里見進総長、寺島英弥河北新報社編集委員と)東北大学ホ
ームカミングデーの一環

2013年4月14日 財団法人メンタルケア協会 第148回メンタルケア・
スペシャリスト養成講座基礎課程(仙台会場) 講師 「人間関係は犯
罪を防げるか? 東京を事例として」

木村邦博

2009年6月4日 平成21年度仙塩地区高等学校長会講話(KKRホテ
ル仙台)、「仙台圏の高校生の20年」

2009年8月10日 宮城県高等学校社会科教育研究会第33回ワークシ
ョップ 共同講演(ゆと森 倶楽部 蔵王ハイツ)「仙台圏の高校生
の20年、そして現在」

2010年7月21日 宮城県高校教育課 高大連携事業 地域開催公開講
座 平成22年度 Samuma Summer University(宮城県佐沼高等学校)、
「血液型性格学の流行を行動科学で考える」

2013年5月11日 東北大学文学研究科と市民のセミナー 第12期 有
備館講座「文化理解(解釈)のキーワード」 第1回 (大崎市岩
出山公民館) 「知的柔軟性の国際比較」

浜田宏

2009年12月12日 組織的な大学院教育改革推進プログラム人
間科学データによる包括的専門教育 特別シンポジウム「格差
社会における階層意識の現状と課題」講師「階層帰属意識の数
理モデルの展開」

永吉希久子

2012年9月1日 第5期斎理蔵の講座 講師 「外国人とともに生きる一地域における多文化共生を考える」

(3) NPO・NGO 法人・民間企業との協力関係等

佐藤嘉倫

2009年9月－2009年11月 国連大学グローバルセミナー第8回東北セッション実行委員

木村邦博

2009年4月－2013年3月 東北工業大学高等学校評価委員(委員長)

2009年9月－2011年3月 一般社団法人社会調査協会 機関誌『社会と調査』専門査読委員

2010年5月－2013年3月 宮城県宮城広瀬高等学校学校評議員

2011年12月－現在 一般社団法人社会調査協会 機関誌『社会と調査』専門査読委員

2013年8月－現在 仙台城南高等学校外部評価委員

本郷正武 (～2010.3)

2003年2月－現在 東北 HIV コミュニケーションズ 事務局次長

VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2009～2013年度)

佐藤嘉倫

2003年11月－2009年10月 日本社会学会国際交流委員

2006年1月－現在 Editorial Advisory Board, *Equal Opportunities International* (2010年より *Equality, Diversity and Inclusion* に改名)

2006年7月－現在 国際社会学会理事

2006年7月－2010年7月 国際社会学会合理的選択部会長

2008年7月14日－現在 日本社会学会世界社会学会議組織委員

2009年12月－2012年11月 日本社会学会国際化戦略特別委員会委員

2010年1月－現在 Editorial board, *British Journal of Management*

2010年7月－現在 国際社会学会合理的選択部会理事

2010年7月－現在 国際社会学会概念・用語分析部会副会長 (アジア担当)

2010年8月－2011年8月 アメリカ社会学会「合理性と社会」部会最

優秀論文賞選考委員長

2010年8月－2011年8月 アメリカ社会学会「合理性と社会」部会評議員

2010年9月 日本行動計量学会第38回大会企画委員

2011年3月－現在 Editorial board, *Bangladesh Sociological Studies*

2011年8月－2012年8月 アメリカ社会学会「合理性と社会」部会長

2012年3月－現在 International advisory board, *The Journal of Asian and African Studies*

2012年8月－現在 アメリカ社会学会「合理性と社会」部会評議員

2012年11月－現在 日本社会学会理事

2012年11月－現在 Deputy Editor, *International Journal of Japanese Sociology*

2013年3月－現在 Editorial board, *International Sociology*

2013年3月－現在 Editorial board, *Contemporary Japan*

2013年7月-現在 東北社会学会理事

木村邦博

2007年10月－2011年9月 日本教育社会学会編集委員

2009年4月－現在 日本行動計量学会欧文機関誌編集委員

2009年7月－2011年7月 東北社会学会理事

2012年4月－現在 日本行動計量学会広報委員会委員

浜田宏

2009年4月－2011年3月 数理社会学会理事（研究理事）

2010年4月－2012年3月 日本社会学会編集委員会専門委員

2011年4月－2013年3月 数理社会学会理事（『理論と方法』編集委員会委員長）

2011年4月－2013年3月 数理社会学会研究活動委員

永吉希久子

2012年4月－2012年3月 日本社会学会選挙管理委員

2013年4月－現在 社会調査士協会選挙管理委員

本郷正武（～2010.3）

2007年7月－2009年7月 東北社会学会理事

2009年7月－現在 東北社会学会編集委員

Ⅶ 教員の教育活動

(1) 学内授業担当 (2013 年度)

1 大学院授業担当

教授 佐藤嘉倫

数理行動科学研究演習Ⅰ 「社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル」

数理行動科学研究演習Ⅱ 「エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明」

社会行動科学特論Ⅱ (瀧川裕貴助教と共同開講) 「Introduction to sociology of social networks」

社会行動科学特論Ⅱ (瀧川裕貴助教と共同開講) 「Methods and models for the analysis of social networks」

計量行動科学特論Ⅱ 「格差・不平等・リスクの社会学」

課題研究 (行動科学)

教授 木村邦博

計量行動科学研究演習Ⅰ 「ジェンダーと階層帰属意識の計量分析」

計量行動科学研究演習Ⅱ 「社会調査法への認知科学的アプローチ」

課題研究 (行動科学)

准教授 浜田宏

数理行動科学研究演習Ⅲ 「数理・計量社会学の数学的基礎」

数理行動科学研究演習Ⅳ 「社会現象のモデル化とアルゴリズム分析」

課題研究 (行動科学)

准教授 永吉希久子

計量行動科学研究演習Ⅲ 「差別論」

計量行動科学研究演習Ⅲ 「現代日本と差別」

課題研究 (行動科学)

2 学部授業担当

教授 佐藤嘉倫

行動科学概論 「ミクロ-マクロ問題入門」

行動科学概論 「ゲーム理論入門」

行動科学演習 「社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル」
行動科学演習 「エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明」
行動科学各論（瀧川裕貴助教と共同開講） 「Introduction to sociology of social networks」
行動科学各論（瀧川裕貴助教と共同開講） 「Methods and models for the analysis of social networks」
行動科学各論 「格差・不平等・リスクの社会学」
人文社会序論（永吉希久子准教授と共同開講） 「行動科学から見る現在」

教授 木村邦博

行動科学概論 「社会調査の基礎」
行動科学概論 「社会調査の実際」
人文統計学 「統計学の基礎」
人文統計学 「推測統計と多変量解析の基礎」

准教授 浜田宏

行動科学基礎演習 「行動科学的研究の基礎：計量分析とフォーマルセオリー」
行動科学演習 「社会学の理論と実証」
行動科学演習 「社会現象のモデル化とアルゴリズム分析」

准教授 永吉希久子

行動科学演習 「差別論」
行動科学演習 「現代日本と差別」
行動科学基礎実習 「社会調査演習」
行動科学基礎実習 「多変量解析演習」
人文社会序論（佐藤嘉倫教授と共同開講） 「行動科学から見る現在」

助教 川嶋伸佳

行動科学基礎演習 「行動科学の基礎技術」

3 共通科目・全学科目授業担当

教授 木村邦博

基礎ゼミ 「日本の家族の事実をとらえる」

(2) 他大学への出講 (2009～2013 年度)

佐藤嘉倫

2007 年 4 月－2012 年 9 月 放送大学

2010 年 12 月 名古屋大学

2011 年 5 月－6 月 インドネシア大学大学院

2012 年 10 月 20 日 学都仙台コンソーシアム 復興大学 「復興の社会学」「人はなぜ援助するのか―一人々を災害ボランティアに駆り立てたもの」 (オムニバス授業)

2013 年 4 月－現在 統計数理研究所客員教授

木村邦博

2012 年 11 月 24 日 学都仙台コンソーシアム 復興大学 「復興の社会学」「復興政策形成の現状と可能性―政治・行政・社会運動―」 (オムニバス授業)

浜田宏

2010 年 8 月 大阪大学大学院 「数理社会学特講」

2012 年 12 月 1 日 学都仙台コンソーシアム 復興大学 「復興の社会学」「優先的に住むのは誰か―仮設住宅の配分を巡る効率と公正―」 (オムニバス授業)

永吉希久子

2011 年 10 月 津田塾大学 「Japanese Society」 (オムニバス授業)

本郷正武 (～2010.3)

2009 年 8 月 岩手県立大学 「市民活動論」 (集中講義)

2009 年 9 月－2010 年 1 月 尚絅学院大学 「NPO・ボランティア論」

川嶋伸佳 (2012.4～)

2012 年 4 月－現在 東北文化学園大学 「人格心理学」

2012 年 9 月－現在 東北文化学園大学 「社会心理学」

2013 年 4 月－現在 放送大学宮城学習センター 「初歩からのパソコン」